

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月26日

【事業年度】 第177期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 京成電鉄株式会社

【英訳名】 Keisei Electric Railway Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小林 敏也

【本店の所在の場所】 千葉県市川市八幡三丁目3番1号

【電話番号】 047(712)7000

【事務連絡者氏名】 経 理 部 長 橋 本 武

【最寄りの連絡場所】 千葉県市川市八幡三丁目3番1号

【電話番号】 047(712)7000

【事務連絡者氏名】 経 理 部 長 橋 本 武

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第173期	第174期	第175期	第176期	第177期
決算年月		2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
営業収益	(百万円)	251,204	245,837	255,028	261,553	274,796
経常利益	(百万円)	42,572	47,064	47,145	50,720	41,705
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	30,997	35,711	34,811	38,642	30,110
包括利益	(百万円)	30,907	38,438	36,664	39,207	29,276
純資産額	(百万円)	296,374	332,344	366,423	402,901	428,664
総資産額	(百万円)	781,280	795,447	794,712	853,025	905,716
1株当たり純資産額	(円)	1,700.30	1,902.57	2,094.61	2,300.86	2,436.36
1株当たり当期純利益	(円)	183.10	210.96	205.66	228.29	178.07
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	36.8	40.5	44.6	45.7	45.4
自己資本利益率	(%)	11.3	11.7	10.3	10.4	7.5
株価収益率	(倍)	17.29	12.24	15.90	17.61	17.52
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	45,759	45,133	47,952	45,851	51,487
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	19,372	21,535	27,023	53,430	48,076
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	19,922	31,787	19,878	7,246	4,411
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	31,471	23,294	24,417	25,018	26,675
従業員数 [外、平均臨時 雇用者数]	(名)	8,611 [3,046]	8,840 [3,328]	8,903 [3,351]	9,240 [3,304]	10,851 [4,170]

(注) 1 「第1 企業の概況」から「第5 経理の状況」まで、特に記載のない限り、消費税等抜きで記載しております。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 2016年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施したことに伴い、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益については、第173期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を第176期の期首から適用しており、第175期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第173期	第174期	第175期	第176期	第177期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
営業収益 (百万円)	79,618	76,850	81,712	85,374	85,980
経常利益 (百万円)	15,683	18,546	21,178	24,120	21,565
当期純利益 (百万円)	10,732	13,812	15,154	17,929	14,815
資本金 (百万円)	36,803	36,803	36,803	36,803	36,803
発行済株式総数 (千株)	344,822	172,411	172,411	172,411	172,411
純資産額 (百万円)	137,674	149,537	168,316	183,862	192,410
総資産額 (百万円)	519,113	511,715	500,322	539,244	558,935
1株当たり純資産額 (円)	801.37	870.68	980.02	1,070.53	1,124.35
1株当たり配当額 (円)	6.50	11.00	15.00	17.00	17.00
(うち1株当たり 中間配当額) (円)	(3.00)	(3.00)	(7.00)	(7.50)	(8.50)
1株当たり当期純利益 (円)	62.47	80.42	88.24	104.40	86.31
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	26.5	29.2	33.6	34.1	34.4
自己資本利益率 (%)	8.0	9.6	9.3	10.2	7.9
株価収益率 (倍)	50.67	32.11	37.05	38.50	36.14
配当性向 (%)	20.8	17.4	17.0	16.3	19.7
従業員数 [外、平均臨時 雇用者数] (名)	1,666 [250]	1,658 [245]	1,641 [243]	1,665 [226]	1,706 [204]
株主総利回り (%)	106.5	87.4	110.9	136.6	107.0
(比較指標： 配当込みTOPIX) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	1,710	1,669 (2,986)	3,875	4,085	4,655
最低株価 (円)	1,197	1,168 (2,364)	2,558	3,155	2,633

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 2016年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施したことに伴い、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益については、第173期の期首に、株主総利回りについては、第172期に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。
- 3 第174期の1株当たり配当額11.00円は、1株当たり中間配当額3.00円と1株当たり期末配当額8.00円の合計であります。2016年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施したことに伴い、1株当たり中間配当額3.00円は株式併合前、1株当たり期末配当額8.00円は株式併合後の金額となっております。従って、当該株式併合を踏まえて換算した場合、1株当たり中間配当額3.00円は6.00円に相当するため、1株当たり期末配当額8.00円を加えた第174期の1株当たり配当額は14.00円となります。
- 4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第176期の期首から適用しており、第175期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
- 5 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
- 6 2016年10月1日付で株式併合(2株を1株に併合)を実施したため、第174期の株価については当該株式併合前の最高・最低株価を記載し、()内に当該株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

2 【沿革】

年月	概要
1909年7月	京成電気軌道(株)設立(資本金150万円、1909年6月創立総会)
1912年11月	押上～市川(現・江戸川)間、曲金(現・京成高砂)～柴又間開通
1913年10月	柴又～金町(現・京成金町)間開通
1914年8月	江戸川～市川(現・市川真間)間開通
1915年11月	市川新田(現・市川真間)～中山(現・京成中山)間開通
1916年12月	中山(現・京成中山)～船橋(現・京成船橋)間開通
1921年7月	船橋(現・京成船橋)～千葉間開通
1926年12月	津田沼(現・京成津田沼)～成田花咲町(仮駅)間開通
1930年4月	成田花咲町(廃止)～成田(現・京成成田)間開通
1931年12月	青砥～日暮里間開通
1932年7月	バス事業の直営開始
1933年11月	不動産業の営業開始
1933年12月	日暮里～上野公園(現・京成上野)間開通
1945年6月	商号を京成電鉄(株)に変更
1949年5月	東京証券取引所上場
1951年5月	京成建設工業(株)(現・京成建設(株))設立
1960年12月	都営地下鉄1号線(現・浅草線)と相互乗り入れ運転開始
1971年5月	(株)志満津百貨店(現・(株)水戸京成百貨店に経営承継)の株式取得
1972年5月	北総開発鉄道(株)(現・北総鉄道(株))設立
1973年12月	(株)京成ストア設立
1978年5月	京成成田～成田空港(現・東成田)間開通、空港特急「スカイライナー」運転開始
1979年3月	北総開発鉄道(株)(現・北総鉄道(株))北初富～小室間開通
1991年3月	成田市駒井野分岐点～成田空港間開通、成田空港ターミナル地下駅乗り入れによる営業開始
1991年3月	北総開発鉄道(株)(現・北総鉄道(株))京成高砂～新鎌ヶ谷間開通
1998年10月	千葉急行電鉄(株)千葉中央～ちはら台間の営業譲受
2003年10月	バス事業を京成バス(株)に営業譲渡
2004年7月	千葉ニュータウン鉄道(株)が都市基盤整備公団より鉄道施設(小室～印旛日本医大間)を取得
2009年3月	帝都自動車交通(株)の株式を追加取得し、連結子会社化
2010年7月	成田空港線(成田スカイアクセス)開業
2019年3月	京成タクシーホールディングス(株)を設立し、千葉県・茨城県内のタクシー事業を再編
2019年3月	宿泊主体型ホテル1号店(京成リッチモンドホテル東京門前仲町)開業
2019年10月	関東鉄道(株)の株式を追加取得し、連結子会社化

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社92社及び関連会社8社により構成され、その営んでいる主要な事業内容及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

(1) 運輸業 (60社)

事業の内容	会社名
鉄道事業	当社、北総鉄道(株)、関東鉄道(株)、千葉ニュータウン鉄道(株)、新京成電鉄(株)
バス事業	京成バス(株)、関東鉄道(株)、千葉交通(株)、千葉中央バス(株)、東京ベイシティ交通(株)、京成トランジットバス(株)
タクシー事業	帝都自動車交通(株)、京成タクシーホールディングス(株)、(株)舞浜リゾートキャブ その他47社

(2) 流通業 (8社)

事業の内容	会社名
ストア業	(株)京成ストア、(株)コミュニティー京成
百貨店業	(株)水戸京成百貨店
その他流通業	(株)ユアエルム京成 その他4社

(3) 不動産業 (9社)

事業の内容	会社名
不動産販売業	当社、京成不動産(株)、新京成電鉄(株)
不動産賃貸業	当社、関東鉄道(株)、新京成電鉄(株)
不動産管理業	京成ビルサービス(株) その他4社

(4) レジャー・サービス業 (16社)

事業の内容	会社名
レジャー・サービス業	(株)千葉京成ホテル、ケイ・アンド・アール・ホテルデベロップメント(株)、京成トラベルサービス(株)、(株)イウォレ京成、(株)京成エージェンシー、関東情報サービス(株)、(株)オリエンタルランド その他9社

(5) 建設業 (2社)

事業の内容	会社名
建設業	京成建設(株)、京成電設工業(株)

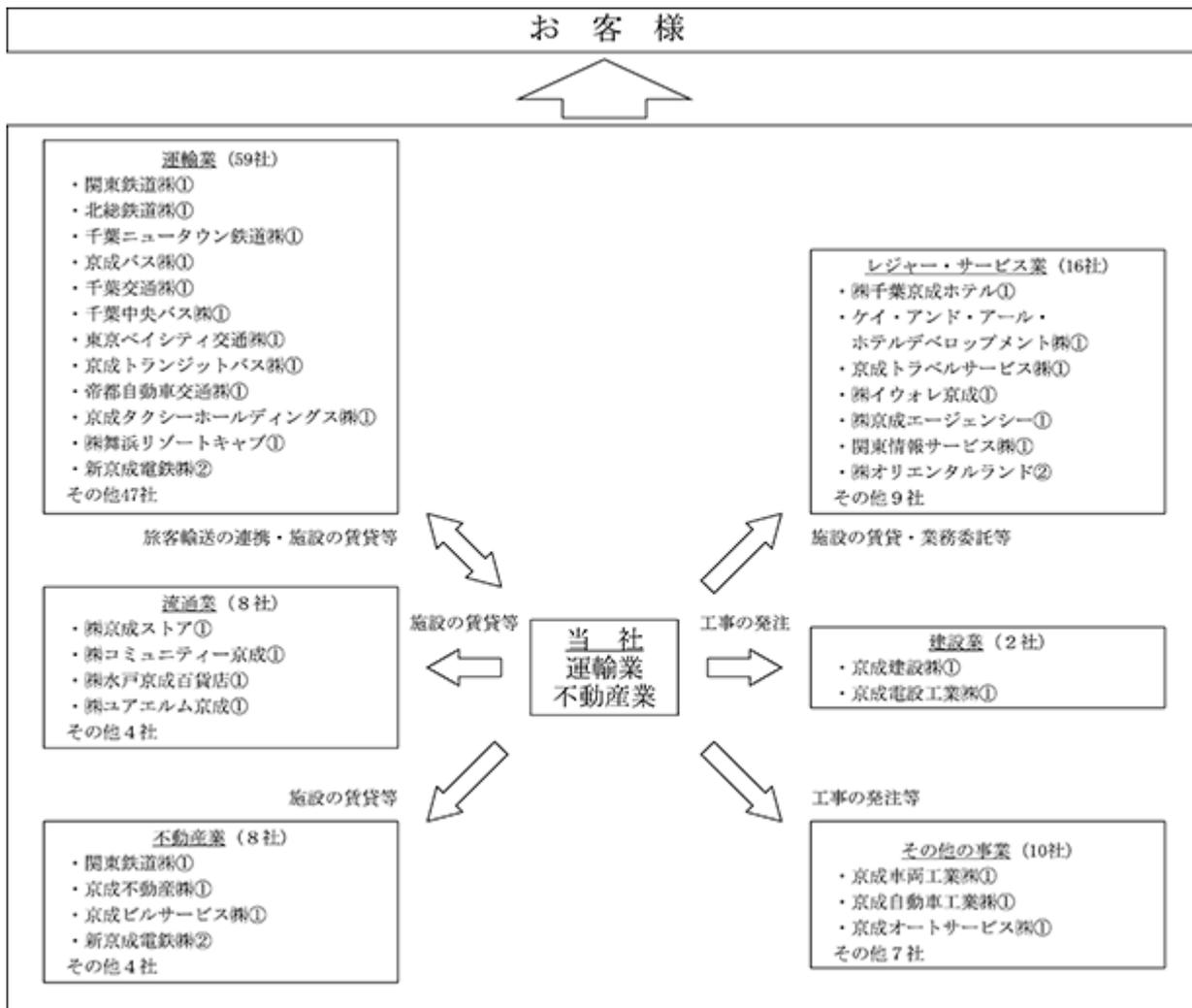
(6) その他の事業 (10社)

事業の内容	会社名
その他の事業	京成車両工業(株)、京成自動車工業(株)、京成オートサービス(株) その他7社

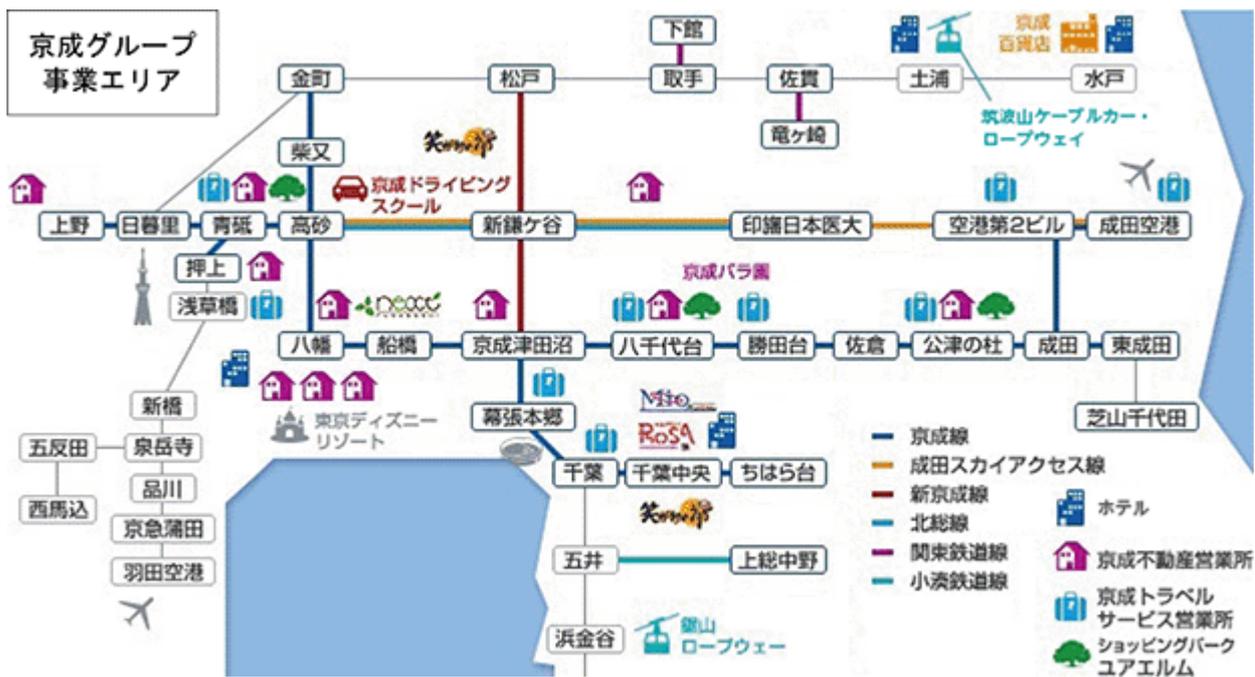
(注) 1 は連結子会社、 は持分法適用関連会社であります。

2 上記事業区分の会社数には、当社、関東鉄道(株)及び関連会社2社が重複して含まれております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



(注) 1 は連結子会社、 は持分法適用関連会社であります。
2 上記事業区分の会社数には、関東鉄道株及び関連会社2社が重複して含まれております。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任等	資金援助	営業上 の取引	設備の 賃貸借
(連結子会社) 関東鉄道㈱ 1	茨城県土浦市	510	鉄道事業 バス事業 不動産賃貸業	57.4	あり	なし	あり	あり
北総鉄道㈱ 2	千葉県鎌ヶ谷市	24,900	鉄道事業	53.4	〃	あり	〃	〃
千葉ニュータウン鉄道㈱	千葉県市川市	10	〃	100.0	〃	〃	〃	〃
京成バス㈱	千葉県市川市	2,005	バス事業	100.0	〃	なし	〃	〃
千葉交通㈱	千葉県成田市	60	〃	100.0	〃	〃	〃	〃
千葉中央バス㈱	千葉市緑区	100	〃	100.0	〃	〃	〃	〃
東京ベイシティ交通㈱	千葉県浦安市	30	〃	65.3	〃	〃	なし	なし
京成トランジットバス㈱	千葉県市川市	90	〃	66.7 [13.3]	〃	〃	あり	あり
帝都自動車交通㈱	東京都中央区	500	タクシー事業	100.0	〃	〃	〃	〃
京成タクシー ホールディングス㈱	千葉県船橋市	100	〃	100.0	〃	〃	〃	なし
㈱舞浜リゾートキャブ	千葉県浦安市	154	〃	58.9	なし	〃	〃	あり
㈱京成ストア	千葉県市川市	475	ストア業	100.0	あり	〃	〃	〃
㈱コミュニティー京成	千葉県市川市	15	〃	100.0	〃	〃	〃	〃
㈱水戸京成百貨店	茨城県水戸市	50	百貨店業	95.0 [19.0]	〃	〃	〃	〃
㈱ユアエルム京成	千葉県八千代市	45	その他流通業	100.0	〃	〃	〃	〃
京成不動産㈱	東京都葛飾区	45	不動産販売業	100.0	〃	〃	〃	〃
京成ビルサービス㈱	千葉県市川市	50	不動産管理業	100.0	〃	〃	〃	〃
㈱千葉京成ホテル	千葉市中央区	10	レジャー・ サービス業	100.0	〃	あり	〃	〃
ケイ・アンド・アール・ ホテルデベロップメント㈱	千葉県市川市	100	〃	51.0	〃	〃	〃	〃
京成トラベルサービス㈱	千葉県市川市	70	〃	100.0	〃	なし	〃	〃
㈱イウォレ京成	千葉市中央区	30	〃	100.0	〃	あり	〃	〃
㈱京成エージェンシー	千葉県市川市	50	〃	100.0	〃	なし	〃	〃
関東情報サービス㈱	茨城県土浦市	40	〃	100.0 [100.0]	なし	〃	〃	なし
京成建設㈱ 2	千葉県船橋市	450	建設業	71.4	あり	〃	〃	あり
京成電設工業㈱	千葉県八千代市	35	〃	81.4	〃	〃	〃	〃
京成車両工業㈱	千葉県印旛郡 酒々井町	20	その他の事業	60.0	〃	〃	〃	〃
京成自動車工業㈱	千葉県市川市	20	〃	100.0	〃	〃	なし	なし
京成オートサービス㈱	千葉市中央区	45	〃	100.0 [30.0]	〃	あり	あり	〃
その他52社								
(持分法適用関連会社) 新京成電鉄㈱ 1	千葉県鎌ヶ谷市	5,935	鉄道事業 不動産販売業 不動産賃貸業	44.8 [5.6]	あり	なし	あり	あり
㈱オリエンタルランド 1	千葉県浦安市	63,201	レジャー・ サービス業	22.2 [0.1]	〃	〃	〃	なし
その他3社								

(注) 議決権の所有割合の [] 内は、間接所有割合で内数であります。

- 1 有価証券報告書を提出しております。
- 2 特定子会社に該当しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	建設業	その他の事業	全社(共通)	計
従業員数(名)	8,647 [2,699]	665 [759]	200 [228]	523 [379]	380 [28]	325 [74]	111 [3]	10,851 [4,170]

- (注) 1 従業員数は就業人員数であり、[]内には、臨時従業員数の年間平均人員を外数で記載しております。
2 全社(共通)の従業員数は、当社の管理部門に係る従業員数であります。
3 前連結会計年度に比べ従業員数が1,611名、臨時従業員数が866名増加しております。主な理由は、関東鉄道(株)及び同社の連結子会社14社を連結の範囲に含めたことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)				平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
運輸業	不動産業	全社(共通)	計			
1,566 [200]	29 [1]	111 [3]	1,706 [204]	41.8	18.3	7,481,198

- (注) 1 従業員数は就業人員数であり、[]内には、臨時従業員数の年間平均人員を外数で記載しております。
2 全社(共通)の従業員数は、管理部門に係る従業員数であります。
3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はありません。

なお、当社には京成電鉄労働組合があり、2020年3月31日現在、組合員数は1,533名で、日本私鉄労働組合総連合会(私鉄総連)に加盟しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは『お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献する』ことを、「グループ経営理念」としております。また、「グループ行動指針」として、『安全、接客、成長、企業倫理、環境』の5つの項目を定め、グループ各社の社員に周知しております。

(2) 中長期的な会社の経営戦略

長期経営計画

当社グループでは、2010～2021年度の12年間を計画期間とする、長期経営計画「Evolution Plan (= Eプラン)」を推進しており、2021年度における当社グループの在るべき姿を、長期経営ビジョンとして以下の通り定め、当社グループ一体となって競争力・総合力の強化に努めております。

[長期経営ビジョン]

グループ事業の中核である交通運輸事業の競争力・収益力をさらに強化すると共に、千葉県北西部（特に京成線・新京成線・北総線沿線）並びに東京都東部を地盤として地域に密着した堅実な総合生活産業を展開し、地域経済を代表する企業グループの地位を拡充する。

中期経営計画

長期経営計画「Eプラン」の最終段階となる中期経営計画「E4プラン」（2019～2021年度）は、既存事業の収益拡大等により「成長の実現」をもって「Eプラン」を達成するとともに、その先の「ポストEプラン」に向けた助走期間と位置付けており、以下の通り、基本方針・基本戦略を定め、事業を推進しております。

[基本方針]

- グループ経営強化による収益拡大の確実な実現
- 安全かつ安心なサービスの提供
- 社会的要請に対応した経営推進体制の確立

[基本戦略]

- 1 地域社会との共生による京成グループのプレゼンス強化
- 2 グループ経営体制の充実並びにコーポレート・ガバナンスの強化
- 3 インバウンド市場の深耕
- 4 既存事業の強化による収益拡大
- 5 安全・安心の確保並びにサービス品質の向上
- 6 新たな成長ビジョンの確立

また、当社グループの持続的成長に資する中長期的な収益拡大に向けた投資に対応するため、「E4プラン」期間で500億円程度の戦略投資枠を設定しております。

(3) 目標とする経営指標

長期経営計画「Eプラン」(2010～2021年度)及び中期経営計画「E4プラン」(2019～2021年度)の数値目標を以下の通り設定しております。

	長期経営計画「Eプラン」 2021年度目標	中期経営計画「E4プラン」 2021年度目標
営業収益	2,800億円以上	2,900億円以上
営業利益		330億円以上
営業利益率	10%以上	11.3%以上
有利子負債残高	3,500億円以下	上限3,200億円
E B I T D A 倍率	7倍以下	上限5.1倍

(注) E B I T D A 倍率 = 有利子負債残高 ÷ (営業利益 + 減価償却費)

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループを取り巻く事業環境は、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞により、極めて厳しい状況が続くものと予想されます。当社グループにおいては、感染防止の措置を講じた上で、需要動向に応じた臨機応変な事業推進など、状況に応じて適切に対処してまいります。また、機動的な資金調達を実施し、流動性の確保に努めてまいります。

運輸業では、さらなる安全性・信頼性向上に向けた施策を推進するとともに、お客様ニーズに対応した満足度の高いサービスの提供を追求してまいります。鉄道事業においては、成田空港駅ホームドアの設置工事や、駅舎及び高架橋の耐震補強工事を推進し安全性向上に努めてまいります。また、中長期的な見地においては、滑走路の増設等による将来的な成田空港利用者の増加を見据えた輸送力増強について検討を進めるほか、沿線観光資源の活用等による沿線内外からの旅客誘致に取り組んでまいります。バス・タクシー事業においては、都心と臨海地域とを結ぶ東京BRT(バス高速輸送システム)事業の推進や乗務員の確保を前提とした営業力の強化を図ってまいります。

流通業では、コンビニエンスストア業における新規出店並びにスーパーマーケット業における既存店の収益力向上を図ってまいります。

不動産業では、不動産賃貸業において、収益性の高い賃貸資産の開発・取得及び保有資産の積極的なバリューアップを推進してまいります。また、不動産販売業における新規事業用地取得並びに販売力の強化に努めてまいります。

レジャー・サービス業では、ホテル業において現在着手している宿泊主体型ホテルの新規出店を進めるほか、収益力の強化を図ってまいります。

建設業では、競争力の強化と幅広い受注戦略の展開による新規顧客の獲得により、収益の拡大を目指してまいります。

当社グループは、グループ経営理念に基づき、「安全・安心」と、お客様に喜ばれる商品・サービスを提供し、沿線を中心とする地域の発展に寄与してまいります。また、コンプライアンス・リスク管理体制を充実させ、内部統制システムの強化に努めるとともに、常に自然環境との調和に配慮するなど、企業の社会的責任の遂行に取り組んでまいります。さらに、お客様第一主義を徹底し、「BMK(ベストマナー向上)推進運動」を浸透させ、選ばれる京成グループを構築してまいります。

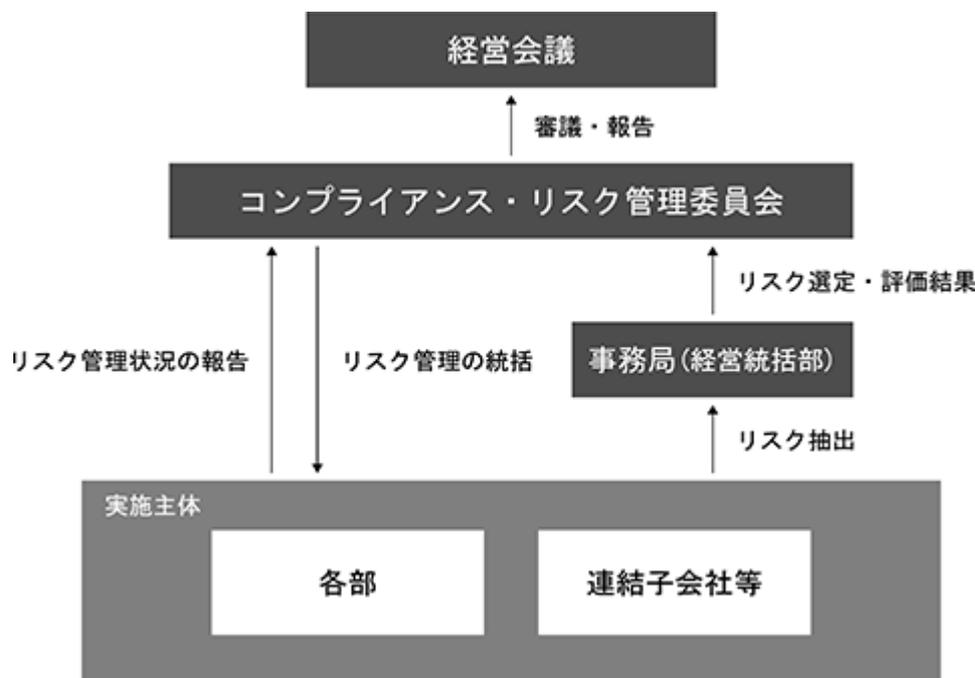
2 【事業等のリスク】

[基本方針]

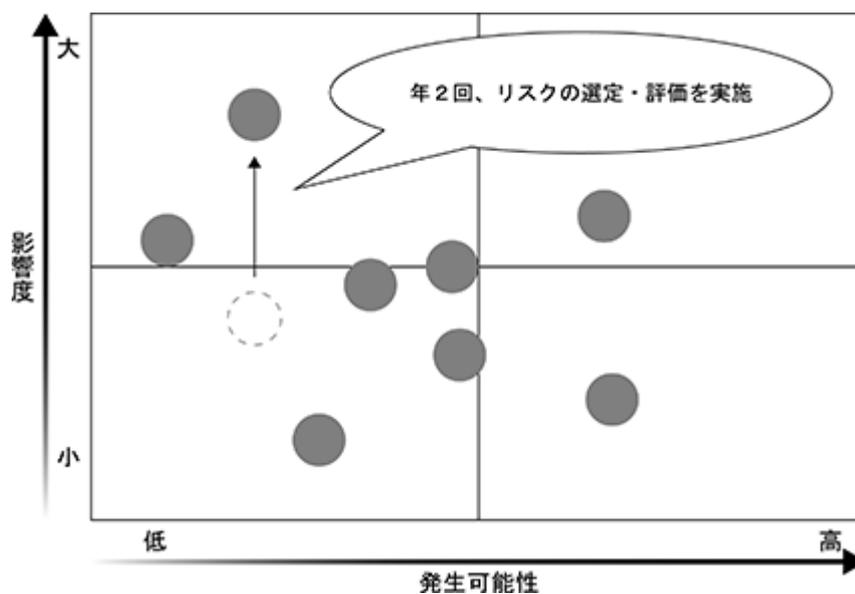
当社は、常勤取締役等で構成され、取締役社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会（原則年2回開催）を設置し、グループ全体の事業継続に影響を及ぼす可能性を有するリスクを組織的に選定・評価し、その影響を把握した上で、適切な対応を図る体制を整備しております。

コンプライアンス・リスク管理委員会では、当社並びに連結子会社等によるコンプライアンス・リスク抽出結果を踏まえ、その発生可能性や売上に対する影響度の評価を行い、その結果を経営会議に報告しております。

<体制図>



<リスク選定・評価結果イメージ>



[当社グループが認識するリスク]

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、以下の将来に関する事項は、2020年4月に開催したコンプライアンス・リスク管理委員会における審議を経て判断したものであり、有価証券報告書提出日（2020年6月26日）時点において変更はありません。

(特に重要なリスク)

(1) 自然災害等

当社グループは、運輸業を中心に、東京都東部、千葉県北西部を中心とした一定の地域に事業を展開しております。感染症が著しく流行した場合には、外出自粛による需要減退や、従業員や顧客の感染予防策構築などに伴う収益の減少及び新たな経営コストの発生により、当社グループの経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。また、同地域において大地震・台風及び大雪等の自然災害が発生した場合、あるいは当社グループの施設を対象としたテロ行為、様々な事故、電力等の供給制限が発生した場合、顧客や従業員の罹災、固定資産や棚卸資産へ被害が及ぶこともあり、また、消費意欲の低下による収益の減少や復旧改善コストの増加により、当社グループの経営成績及び財政状態が影響を受ける可能性があります。

(2) 少子・高齢化

わが国は少子・高齢化が進展しており、生産年齢人口が将来にわたり減少することが推測されております。当社グループの事業エリアは全国平均からは遅れるものの、人口の減少や構造の変化等社会情勢及び経済情勢の変化により、当社グループが提供する商品・サービスの需要が低下した場合、労働力の確保並びに人材の育成が困難となった場合には、収益の減少及び経営コストの増加により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(3) 国際情勢等

当社グループの事業エリア内には成田国際空港があり、運輸業における空港利用者に係る営業収益の依存度は比較的高い状況にあります。このため、海外において重大なテロ行為や国際紛争、感染症流行等が発生した場合、空港利用客の大幅な減少により収益が減少する可能性があるほか、市場や為替相場の動向による原油及び原材料価格が高騰した場合、電気料金及び商品・原材料調達コストの増加等により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(重要なリスク)

(1) 法的規制等

当社グループは、鉄道事業、バス事業等の運輸業を主たる事業としております。これらの事業を営む上で、施設等の新設や保安、運賃・料金の設定等には鉄道事業法、道路運送法等の法的な規制を受けております。そのほか当社グループの各事業は所管法令による規制を受けており、法的規制の新設又は適用基準の重大な変更がなされた場合、企業活動の制限又は法令上の規制に対応するための経営コストの増加等により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

当社グループが提供する商品・サービスの品質管理には万全を期しておりますが、施工販売物件における瑕疵、取扱商品に重大な商品事故が発生した場合、又は運輸業において重大な有責事故が発生した場合には、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

当社グループでは、内部統制システムの維持、向上に取り組んでおりますが、内部統制の重大な不備等により不適切な財務報告等が発生した場合、また、反社会的勢力に対する不適切な対応等が行われた場合には、社会的信用が失墜する可能性があります。

(2) システム障害

当社グループでは、決算業務処理や列車運行、座席予約システム等各事業において情報システムを使用しております。これらのハードウェア、ソフトウェア又はネットワークに、自然災害や人為的ミス、妨害行為等により重大な障害が発生した場合、業務に支障を来し開示情報等の遅延による社会的信用の失墜の恐れがあるほか、復旧並びに改善に長期を要する場合、収益の減少や復旧改善コストの増加により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(3) 金利変動

当連結会計年度末の当社グループの借入金等の有利子負債残高は3,423億円であり、今後とも有利子負債の抑制に努めていく方針であります。当社グループとしては可能な限り有利子負債の固定金利化を進め、金利の変動リスクの抑制に努めておりますが、今後、金利が大幅に変動した場合、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(4) 情報漏洩

当社グループでは、各事業において個人情報等業務上の機密情報を保有しております。「情報セキュリティ方針」や「個人情報保護方針」、「内部者取引防止規則」等を制定し、役員や従業員への啓蒙活動、マニュアル類の整備等機密情報の管理体制の整備・強化に努めておりますが、不測の事故等により機密情報が外部へ漏洩するような事態が発生した場合、損害賠償請求や社会的信用の失墜等により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(5) その他

羽田空港の更なる機能強化により、相対的に成田国際空港の旅客需要が低下した場合、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。不適切なお客様対応を行った場合、又は情報開示を適時適正に実施しなかった場合、当社グループの社会的信用が失墜する恐れがあります。重要な提携先や取引先において不測の事故や事件が発生し、又は経営が悪化した場合、当社グループの事業に支障を来す恐れがあります。関係会社の業績が悪化した場合、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

なお、上記は当社グループの事業等について予想される主なりスクを具体的に例示したものであり、当社グループの全てのリスクを網羅したものではありません。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態の状況

資産合計は、前期末比526億9千万円（6.2%）増の9,057億1千6百万円となりました。これは、関東鉄道株式会社の子会社化等により「有形固定資産」が増加したことによるものです。

負債合計は、前期末比269億2千8百万円（6.0%）増の4,770億5千2百万円となりました。これは、借入金等の有利子負債が増加したことによるものです。

純資産合計は、前期末比257億6千2百万円（6.4%）増の4,286億6千4百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により「利益剰余金」が増加したことによるものです。

(連結貸借対照表)

単位：百万円、%	前連結会計年度	当連結会計年度	増減
資産合計	853,025	905,716	52,690
負債合計	450,124	477,052	26,928
有利子負債残高	320,043	342,342	22,299
純資産合計	402,901	428,664	25,762
自己資本	389,464	411,030	21,565
自己資本比率	45.7	45.4	0.3pt

経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、緩やかに回復していたものの、消費税率引き上げに加え、第4四半期に入り新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に下押しされ、個人消費と企業収益は急速に悪化し、雇用情勢に影響がみられるなど、極めて厳しい状況にあります。

このような状況の中で、当社グループは、中期経営計画「E4プラン」の基本方針である「グループ経営強化による収益拡大の確実な実現」、「安全かつ安心なサービスの提供」、「社会的要請に対応した経営推進体制の確立」に基づき諸施策を推進してまいりました。また、2019年10月8日付で関東鉄道株式会社を連結子会社とし、グループ経営体制の強化に努めております。

その結果、関東鉄道グループの連結子会社化、千葉県・茨城県内のタクシー事業の再編に伴う連結範囲の拡大及び建設業の伸長等により、営業収益は2,747億9千6百万円（前期比5.1%増）となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による既存事業の減収により、営業利益は283億2千万円（前期比10.4%減）となりました。持分法による投資利益の減少もあり、経常利益は417億5百万円（前期比17.8%減）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は301億1千万円（前期比22.1%減）となりました。

(連結損益計算書)

単位：百万円、%		前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率
運輸業	営業収益	154,004	161,089	7,084	4.6
	営業利益	22,448	17,921	4,527	20.2
流通業	営業収益	68,634	68,321	313	0.5
	営業利益	247	389	142	57.5
不動産業	営業収益	22,406	24,648	2,241	10.0
	営業利益	6,727	8,446	1,719	25.6
レジャー・サービス業	営業収益	9,237	10,524	1,287	13.9
	営業利益	107	140	247	
建設業	営業収益	24,263	27,245	2,982	12.3
	営業利益	1,466	1,617	150	10.3
その他の事業	営業収益	9,602	9,977	374	3.9
	営業利益	573	316	256	44.8
小計	営業収益	288,149	301,806	13,657	4.7
	営業利益	31,570	28,550	3,019	9.6
連結修正	営業収益	26,596	27,010	414	
	営業利益	37	230	268	
連結	営業収益	261,553	274,796	13,242	5.1
	営業利益	31,608	28,320	3,288	10.4
経常利益		50,720	41,705	9,014	17.8
親会社株主に帰属する当期純利益		38,642	30,110	8,531	22.1
(注) 持分法による投資利益		20,211	13,950	6,261	31.0

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(運輸業)

鉄道事業では、安全輸送確保の取り組みとして、成田空港駅ホームドアの設置工事や高架橋の耐震補強工事等を進めました。また、2017年度より継続して取り組んでいた駅ホーム上の非常停止ボタンとデジタルA T Sの連動化工事が全線において完了いたしました。

大規模工事については、葛飾区内の押上線連続立体化工事における仮下り線工事を推進いたしました。

営業面では、空港アクセスの利便性向上のため10月にスカイライナーを増便するなどのダイヤ改正を実施いたしました。併せて、認知度向上を目的として、人気タレントを起用したテレビCM等による広告宣伝を展開いたしました。さらに、関西国際空港内・那覇空港駅内・福岡空港内にスカイライナー割引チケット発行機を設置するなど、一層の利用促進を図りました。また、快適な車内環境を提供する設備等を取り入れた新形式車両3100形を導入いたしました。このほか、佐倉市と観光キャンペーンを実施し記念乗車券を発売するとともに、東京藝術大学と連携し、京成上野駅と東京メトロ銀座線を結ぶ連絡通路をリニューアルし、沿線の魅力向上と旅客誘致に努めました。

バス事業では、一般乗合バス路線において、浦安市内等で既存路線を増便するなど、利便性向上のためダイヤ改正を実施いたしました。高速バス路線においては、更なる空港アクセスの利便性向上のため京成グループのバス4社が運行する「東京シャトル」と、他のバス会社の路線を統合し、新たに「エアポートバス東京・成田」として運行を開始いたしました。また、路線新設等、需要の取り込みを図りました。このほか、東京都心と臨海部を結ぶ「東京BRT(バス高速輸送システム)」の運行を担う東京BRT株式会社を設立し、運行開始に向け準備を進めました。

タクシー事業では、9月に帝都三信交通株式会社及び帝都三信大森交通株式会社が営業を開始するとともに、帝都自動車交通株式会社が京王自動車株式会社と、車体デザインを帝都仕様に統一するなどの業務提携を行い、エリア拡大による更なるサービス向上に努めました。

以上の結果、関東鉄道グループの連結子会社化及び千葉県・茨城県内のタクシー事業の再編に伴う連結範囲の拡大により、営業収益は1,610億8千9百万円(前期比4.6%増)となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による既存事業の減収により、営業利益は179億2千1百万円(前期比20.2%減)となりました。

(事業別内訳)

単位：百万円、%		前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率
鉄道事業	営業収益	82,436	82,424	11	0.0
	営業利益	17,880	14,744	3,135	17.5
バス事業	営業収益	46,686	50,242	3,556	7.6
	営業利益	4,187	2,939	1,248	29.8
タクシー事業	営業収益	24,882	28,422	3,539	14.2
	営業利益	380	237	143	37.7
運輸業	営業収益	154,004	161,089	7,084	4.6
	営業利益	22,448	17,921	4,527	20.2

(当社鉄道事業運輸成績表)

		単位	前事業年度	当事業年度	増減	増減率(%)
営業日数		日	365	366	1	0.3
営業キロ		キロ	152.3	152.3		
客車走行キロ		千キロ	97,978	100,430	2,451	2.5
旅客人員	定期	千人	171,540	173,808	2,268	1.3
	定期外	"	121,050	119,014	2,036	1.7
	計	"	292,590	292,822	232	0.1
	うち成田空港発着	"	21,663	21,717	54	0.2
	うち有料特急	"	6,076	6,079	3	0.0
旅客運輸収入	定期	百万円	21,464	21,702	237	1.1
	定期外	"	44,099	43,510	588	1.3
	計	"	65,563	65,213	350	0.5
	うち成田空港発着	"	21,167	21,177	10	0.0
	うち有料特急	"	5,805	5,843	37	0.7
運輸雑収		"	3,855	3,216	639	16.6
収入合計		"	69,419	68,429	990	1.4
一日平均収入		"	190	186	3	1.7
乗車効率		%	35.2	34.1	1.1pt	

(注) 乗車効率は $\frac{\text{延入キロ}}{\text{客車走行キロ} \times \text{平均定員}}$ により、算出しております。

(流通業)

百貨店業・ストア業では、各種イベントや売り場の一部リニューアル等を実施し、販売の強化に努めました。また、収益拡大を図るため、「ファミリーマート千葉みなと店」等の2店舗を新たにオープンし、「ファミリーマート道野辺中央店」の営業権を取得いたしました。このほか、リブレ京成三咲店を「業務スーパー三咲店」・「ドラッグストアマツモトキヨシ三咲店」にリニューアルいたしました。

以上の結果、百貨店業の販売不振により、営業収益は683億2千1百万円（前期比0.5%減）となりましたが、前連結会計年度にその他流通業においてたな卸資産の評価損を計上した反動により、営業利益は3億8千9百万円（前期比57.5%増）となりました。

(事業別内訳)

単位：百万円、%		前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率
ストア業	営業収益	37,214	37,425	211	0.6
	営業利益	325	245	79	24.5
百貨店業	営業収益	25,869	25,351	517	2.0
	営業利益	65	10	55	84.1
その他流通業	営業収益	5,551	5,544	7	0.1
	営業利益	143	133	276	
流通業	営業収益	68,634	68,321	313	0.5
	営業利益	247	389	142	57.5

(不動産業)

不動産販売業では、中高層住宅「サングランデ ザ・レジデンス千葉（イーストレジデンス）」及び「サングランデ津田沼」を計画通り全戸引き渡しいたしました。また、中高層住宅予定地として、葛飾区立石の土地を取得いたしました。

不動産賃貸業では、中央区日本橋小網町のビジネスホテル等が稼働したほか、台東区東上野の賃貸施設及び江戸川区北小岩の賃貸住宅等を取得いたしました。また、2021年度のオープンを目指し、墨田区江東橋と墨田区押上において、「京成リッチモンドホテル」2号店、3号店の工事を推進しております。

以上の結果、駅構内賃貸収入の計上セグメント変更、新規賃貸物件の寄与及び関東鉄道グループの連結子会社化により、営業収益は246億4千8百万円（前期比10.0%増）となり、営業利益は84億4千6百万円（前期比25.6%増）となりました。

(事業別内訳)

単位：百万円、%		前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率
不動産販売業	営業収益	6,229	6,585	355	5.7
	営業利益	440	932	491	111.5
不動産賃貸業	営業収益	11,904	13,786	1,881	15.8
	営業利益	6,038	7,235	1,196	19.8
不動産管理業	営業収益	4,272	4,276	4	0.1
	営業利益	248	279	31	12.5
不動産業	営業収益	22,406	24,648	2,241	10.0
	営業利益	6,727	8,446	1,719	25.6

(レジャー・サービス業)

レジャー・サービス業では、京成ホテルミラマール、水戸京成ホテル及び京成リッチモンドホテル東京門前仲町において、各種宿泊プランを企画するなど、引き続き顧客の獲得に努めました。

また、京成トラベルサービス創業60周年を記念した特別ツアー等、多様な旅行商品の企画・催行により、営業力の強化を図りました。

このほか、事業拡張のため、「サブウェイ ニッケコルトンプラザ店」等の2店舗の営業権を取得いたしました。

以上の結果、関東鉄道グループの連結子会社化及びホテル新店の通期寄与により、営業収益は105億2千4百万円（前期比13.9%増）となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、1億4千万円の営業損失となりました。

(建設業)

建設業では、鉄道施設改良工事やビジネスホテルの新築工事等を行ったほか、当社グループ外からの受注拡大に努めました。

また、千葉県下で事業を展開している建設会社の全株式を取得し、7月に京成建設株式会社と合併させ、専門性の高い人材の確保や営業先の拡大に努めました。

以上の結果、建設会社の吸収合併及び民間建築工事の増加により、営業収益は272億4千5百万円（前期比12.3%増）となり、営業利益は16億1千7百万円（前期比10.3%増）となりました。

(その他の事業)

その他の事業では、営業収益は99億7千7百万円（前期比3.9%増）となりましたが、営業利益は3億1千6百万円（前期比44.8%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益に減価償却費等を調整した結果、514億8千7百万円の収入となり、前連結会計年度と比べ56億3千5百万円の収入増となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出等により480億7千6百万円の支出となり、前連結会計年度と比べ53億5千4百万円の支出減となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の返済による支出等により44億1千1百万円の支出となりました。

以上の結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ16億5千6百万円増加し、266億7千5百万円となりました。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

単位：百万円	前連結会計年度	当連結会計年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,851	51,487	5,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	53,430	48,076	5,354
フリーキャッシュ・フロー	7,579	3,410	10,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,246	4,411	11,657
現金及び現金同等物の期末残高	25,018	26,675	1,656

生産、受注及び販売の状況

当社グループ(当社及び連結子会社)の事業内容は、役務の提供を主たる事業としており、生産、受注及び販売の状況について、金額あるいは数量で示すことはしていません。

そのため、生産、受注及び販売の状況については、「経営成績の状況」におけるセグメントごとに業績に関連付けて示しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループでは、長期経営計画「Eプラン」(2010～2021年度)を推進しており、その最終段階となる中期経営計画「E4プラン」(2019～2021年度)では、最終年度(2021年度)における数値目標の達成に向けて、基本方針・基本戦略に基づき、各事業を推進しております。詳細は、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」をご参照ください。

当連結会計年度は、「E4プラン」の基本方針・基本戦略に基づき、鉄道事業におけるスカイライナー増便などのダイヤ改正及び関東鉄道グループの連結子会社化等を実施しました。その結果、営業収益は前期比で増収となり、過去最高を更新したものの、新型コロナウイルス感染症の影響による既存事業の減収により、営業利益は減益となりました。

(経営指標)

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	(参考)Eプラン 2021年度目標	(参考)E4プラン 2021年度目標
営業収益	2,616億円	2,748億円	132億円	2,800億円以上	2,900億円以上
営業利益	316億円	283億円	33億円		330億円以上
営業利益率	12.1%	10.3%	1.8pt	10%以上	11.3%以上
有利子負債残高	3,200億円	3,423億円	223億円	3,500億円以下	上限3,200億円
E B I T D A倍率	5.6倍	6.0倍	0.4pt	7倍以下	上限5.1倍

(注) E B I T D A倍率 = 有利子負債残高 ÷ (営業利益 + 減価償却費)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、主に運輸業(鉄道・バス事業)において、成田空港関連輸送の需要減等により、当連結会計年度の業績に影響を与えております。

当連結会計年度における、新型コロナウイルス感染症の影響による減収額は、約58億円(鉄道事業30億円、バス事業18億円、その他10億円)となりました。運輸業(鉄道・バス事業)においては、営業費に占める固定費の割合が高いため、減収が減益に直結いたしました。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループは、運転資金及び設備投資資金について、営業活動によるキャッシュ・フローに加え、金融機関からの借入及び社債の発行等により調達することとし、事業運営上必要な流動性の確保と安定的な調達を基本方針としております。なお、鉄道車両等については、総支払コストの有利性及び費用の平準化に鑑み、主にリースにより調達しております。また、複数の金融機関との間で震災対応型コミットメントライン契約等を締結し、安定的な資金調達に備えております。

有利子負債残高については、中期経営計画「E4プラン」において目標を設定しており、収益力強化や事業選別の徹底等により、有利子負債の増加を抑制する所存であります。

設備投資については、当社グループの持続的成長に資する中長期的な収益拡大に向けた投資を継続的に実行してまいります。特にコア事業である運輸業、不動産賃貸業に経営資源を集中的に投下し、安全の確保と競争力の強化により収益拡大を目指してまいります。

中期経営計画「E4プラン」においては、2019～2021年度の3か年で、通常設備投資1,000億円のほか、500億円程度の戦略投資枠を設定しております。

当連結会計年度においては、通常投資では、鉄道・バス・タクシー等の車両の更新等、戦略投資では、スカイライナー1編成の増備、収益賃貸物件の取得、関東鉄道(株)株式の追加取得等の、将来の収益拡大に向けた投資に充たいたしました。その結果、現時点で「E4プラン」戦略投資枠の約7割の用途が確定しております。

株主還元については、更なる株主還元の充実に向けて、2021年度に連結配当性向10%を目指し、安定的かつ継続的に利益還元してまいります。なお、当連結会計年度の連結配当性向は9.5%となりました。

当面は、新型コロナウイルス感染症の影響によるキャッシュ・フローの減少を補うため、事業環境の変化を見極めたくうえで、経費・設備投資を極力、抑制または選別してまいります。また、資金調達については、機動的に行い、流動性を確保するとともに、有利子負債の大幅な増加は回避し、財務健全性の維持・向上に努めてまいります。具体的には、シンジケートローンを含む銀行借入、社債及び短期社債（コマーシャル・ペーパー）等から最も有利な資金調達を実施いたします。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表を作成するにあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。

ア 有価証券

時価のある有価証券について、決算期末日の市場価格等に基づく時価法により評価しておりますが、時価が著しく下落した場合は、損失が発生する可能性があります。

イ 固定資産

固定資産の回収可能価額については、将来キャッシュ・フロー、割引率及び正味売却価額等の前提条件に基づき算出しておりますが、前提条件が変更された場合は、損失が発生する可能性があります。

ウ 繰延税金資産

繰延税金資産の回収可能性については、収益力及びタックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得並びに将来加算一時差異に基づき判断しておりますが、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合は、繰延税金資産及び法人税等調整額の金額に重要な影響を与える可能性があります。

エ 退職給付に係る負債

退職給付債務については、割引率等の数理計算上で設定される前提条件に基づき算出しておりますが、実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、退職給付に係る負債及び退職給付費用の金額に重要な影響を与える可能性があります。

なお、会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（追加情報）」をご参照ください。

4 【経営上の重要な契約等】

当社は、2019年7月31日開催の取締役会において、当社の持分法適用関連会社であった関東鉄道株式会社（以下「対象者」といいます。）の普通株式（以下「対象者株式」といいます。）を公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）により取得することを決議いたしました。

なお、本公開買付けは2019年10月1日をもって終了し、2019年10月8日付けで、本公開買付けに応募した株主（以下「応募株主等」といいます。）との間で、応募株主等が所有する対象者株式の買付け等を当社が実施する契約を締結しました。その結果、同日付けで、対象者は当社の連結子会社となりました。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）」をご参照ください。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、不動産業における投資金額の減少により、55,320百万円（前期比9.1%減）となりました。

運輸業では、鉄道事業において車両新造、列車無線設備更新工事及び押上線（四ツ木・青砥駅間）連続立体化工事等を、バス事業において車両新造等を実施しました。

不動産業では、台東区東上野賃貸施設（京成東上野ビル）取得、墨田区江東橋賃貸施設（錦糸町ホテル計画）用地取得、賃貸住宅取得及び千葉中央駅西口ビル建替工事等を実施しました。

なお、設備投資の金額には、ソフトウェア等無形固定資産への投資金額も含めて記載しております。

（セグメント内訳）

単位：百万円、%	前連結会計年度	当連結会計年度	増減	増減率
運輸業	32,934	37,817	4,883	14.8
流通業	947	1,146	199	21.0
不動産業	26,821	16,497	10,323	38.5
レジャー・サービス業	394	234	159	40.6
建設業	34	50	15	46.3
その他の事業	213	71	142	66.8
計	61,344	55,816	5,527	9.0
消去又は全社	505	495	9	
合計	60,839	55,320	5,518	9.1

2 【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）の2020年3月31日現在におけるセグメント毎の設備の概要、帳簿価額及び従業員数等は次のとおりであります。

(1) セグメント内訳

セグメント の名称	帳簿価額								従業員数 (名)
	建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び 運搬具 (百万円)	土地		リース資産 (百万円)	建設仮勘定 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
			面積 (千㎡)	金額 (百万円)					
運輸業	217,556	24,148	4,393	97,482	38,128	34,972	2,312	414,601	8,647 [2,699]
流通業	5,357	60	137	5,844	46	29	685	12,025	665 [759]
不動産業	67,453	338	1,113	83,760	235	1,957	156	153,901	200 [228]
レジャー・ サービス業	765	150	36	171	376	2	72	1,539	523 [379]
建設業	72	10	32	1,074			30	1,188	380 [28]
その他の事業	268	269	33	1,000	36		26	1,601	325 [74]
小計	291,474	24,978	5,744	189,334	38,823	36,962	3,284	584,858	10,740 [4,167]
消去又は全社	1,019			8,613	188	310		9,512	111 [3]
合計	290,454	24,978	5,744	180,720	38,635	37,272	3,284	575,345	10,851 [4,170]

- (注) 1 当社の各事業関連固定資産については、運輸業及び不動産業に配賦しております。
2 上記の外、運輸業における車両、駅務機器等を連結会社以外の者とのリース契約により賃借しております。
3 [] 内には臨時従業員数の年間平均人員を外数で記載しております。

(2) 運輸業

ア 鉄道事業 (従業員数2,038名)

線路及び電路施設

会社名及び線名	区間	営業キロ (km)	複々線・複線・単線の別	駅数	変電所数
(提出会社) 本線	京成上野駅～成田空港駅	69.3	複々線・複線・単線	42	11
成田空港線	京成高砂駅～成田空港駅	49.9	複線・単線	5	3
東成田線	京成成田駅～東成田駅	1.1	複線	1	
押上線	押上駅～青砥駅	5.7	複線	5	1
金町線	京成高砂駅～京成金町駅	2.5	複線・単線	2	
千葉線	京成津田沼駅～千葉中央駅	12.9	複線	9	1
千原線	千葉中央駅～ちはら台駅	10.9	単線	5	2
(国内子会社) 北総鉄道(株) 北総線	京成高砂駅～印旛日本医大駅	32.3	複線	15	6
関東鉄道(株) 常総線	取手駅～下館駅	51.1	複線・単線	25	
関東鉄道(株) 竜ヶ崎線	佐貫駅～竜ヶ崎駅	4.5	単線	3	

- (注) 1 当社及び北総鉄道(株)の各線について、軌間は1.435m、電圧は直流1,500Vであります。また、関東鉄道(株)の各線について、軌間は1.067m、非電化であります。
- 2 本線の一部(成田市駒井野分岐点～成田空港駅間、2.1km)において成田空港高速鉄道(株)から、成田空港線において北総鉄道(株)、千葉ニュータウン鉄道(株)、成田高速鉄道アクセス(株)及び成田空港高速鉄道(株)から、それぞれ鉄道線路、停車場等の設備を借り入れ、第二種鉄道事業を営んでおります。なお、2019年度の使用料は合計で57億2千万円であります。
- 3 成田空港線のうち本線と重複している1.5km、並びに東成田線のうち本線と重複している6.0kmは除いております。また、成田空港線は北総線32.3kmと重複しております。
- 4 本線の駅数と北総線の駅数には、1駅(京成高砂駅)が重複しており、成田空港線の駅数と北総線の駅数には、4駅(東松戸駅、新鎌ヶ谷駅、千葉ニュータウン中央駅、印旛日本医大駅)が重複しております。
- 5 北総線のうち、小室駅～印旛日本医大駅間12.5kmの鉄道線路、停車場等の設備は、千葉ニュータウン鉄道(株)が第三種鉄道事業者として所有し、北総鉄道(株)がこれらを借り入れ、第二種鉄道事業を営んでおります。
- 6 当社において、連結会社以外の者から賃借している主な物件及び面積は以下のとおりであります。
- | | |
|---------------------|------|
| 京成上野駅～日暮里駅間線路、停車場用地 | 25千㎡ |
| 東成田駅付近停車場用地 | 24千㎡ |

車両数

会社名	制御電動客車 (両)	電動客車 (両)	制御客車 (両)	付随客車 (両)	内燃客車 (両)	内燃機関車 (両)	合計 (両)
(提出会社)	180 (76)	284 (134)	4 ()	154 (76)			622 (286)
(国内子会社) 北総鉄道(株)	26 (16)	52 (32)		26 (16)			104 (64)
関東鉄道(株)					55	1	56

- (注) 1 ()内は内数でリース契約により賃借中のものであります。
- 2 当社は上記の外36両を保有し、北総鉄道(株)に24両、千葉ニュータウン鉄道(株)に8両、芝山鉄道(株)に4両を賃貸しております。また、千葉ニュータウン鉄道(株)は40両(当社から賃借中の8両、及びリース契約にて賃借している8両を含む)を保有し、全てを北総鉄道(株)に賃貸しております。

車庫及び工場

会社名及び事業所名	所在地	建物及び構築物	土地	
		帳簿価額(百万円)	面積(千㎡)	帳簿価額(百万円)
(提出会社)				
高砂車庫	東京都葛飾区	718	49	363
津田沼車庫	千葉県習志野市	132	6	7
宗吾車両基地	千葉県印旛郡酒々井町	3,572	122	1,148
(国内子会社)				
千葉ニュータウン鉄道(株) 印旛車両基地	千葉県印西市	2,116	79	349
関東鉄道(株) 水海道車両基地	茨城県常総市	268	29	619

(注) 千葉ニュータウン鉄道(株)印旛車両基地は、北総鉄道(株)へ賃貸しているものであります。

イ バス事業 (従業員数3,258名)

会社名及び事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		在籍車両数		
		帳簿価額(百万円)	面積(千㎡)	帳簿価額(百万円)	乗合(両)	貸切(両)	合計(両)
(国内子会社)							
京成バス(株) 新都心営業所及び8営業所外	千葉県習志野市外	235			[1] 828	[1] 41	[2] 869
関東鉄道(株) 守谷営業所及び6営業所外	茨城県守谷市外	993	84	746	[275] 159	[13] 18	[288] 177
千葉交通(株) 本社及び3営業所外	千葉県成田市外	2,313	116	1,265	178	19	197
千葉中央バス(株) 本社及び3営業所外	千葉市緑区外	230	15	1,424	[48] 64	[7] 3	[55] 67
東京ペイシティ交通(株) 本社営業所	千葉県浦安市	487	20	3,020	[55] 74	14	[55] 88
京成トランジットバス(株) 本社及び1営業所	千葉県市川市外	16			[15] 36	[75] 23	[90] 59

(注) 1 上記車両数は、営業用の車両数であります。

2 []内は外数でリース契約により賃借中のものであります。

ウ タクシー事業 (従業員数3,351名)

会社名及び事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		在籍車両数		
		帳簿価額(百万円)	面積(千㎡)	帳簿価額(百万円)	タクシー(両)	ハイヤー(両)	合計(両)
(国内子会社)							
帝都自動車交通(株) 及び同社子会社10社	東京都中央区外	4,272	958	10,088	[515] 193	[425] 13	[940] 206
京成タクシーホールディングス(株) 及び同社子会社11社	千葉県船橋市外	808	47	2,006	[358] 454	[4] 34	[362] 488

(注) 1 上記車両数は、営業用の車両数であります。

2 []内は外数でリース契約により賃借中のものであります。

(3) 流通業

会社名及び事業所名	所在地	建物及び 構築物	土地		摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	
(国内子会社) ㈱京成ストア リブレ京成三矢小台店外	千葉県・東京都	1,105	19	1,586	スーパーマーケット外
㈱ユアエルム京成 八千代台店外	千葉県・東京都	2,600	15	3,746	ショッピングセンター

(4) 不動産業

会社名及び事業所名	所在地	建物及び 構築物	土地		摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	
(提出会社) 京成バス㈱ 新都心営業所及び8営業所外	千葉県習志野市外	2,112	130	12,109	商業施設 ホテル・商業施設 千葉支店外17拠点 商業施設 社員寮 ホテル・商業施設 事務所 ホテル
ユアエルム成田店	千葉県成田市	3,331	24	2,966	
千葉中央駅東口複合施設 ミラマーレ	千葉市中央区	1,137	5	1,426	
三菱ふそうトラック・バス㈱ 整備・営業拠点	千葉県・茨城県 埼玉県	5,650	140	12,454	
京成上野ビル	東京都台東区	2,483	4	6,970	
ファインフルーク公津の杜	千葉県成田市	2,813	15	2,154	
京成押上ビル	東京都墨田区	4,838	4	175	
京成東上野ビル	東京都台東区	1,642	1	2,452	
船橋市宮本商業施設	千葉県船橋市	2,606	12	468	
京成日本橋小網町ビル	東京都中央区	782	0	1,290	

(注) は連結子会社に賃貸しております。

(5) レジャー・サービス業

記載すべき主要な設備はありません。

(6) 建設業

記載すべき主要な設備はありません。

(7) その他の事業

記載すべき主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、中長期的な経営戦略に基づき、景気予測、投資効率等を勘案して、原則的には連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体として重複投資とならないよう、当社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設、除却等の計画は以下のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

セグメント の名称	設備の内容	工事計画金額 (百万円)	主な資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				着手	完了
運輸業	(提出会社)				
	押上線(四ツ木・青砥駅間) 連続立体化工事	6,518	借入金及び自己資金	2003年4月	2023年3月
	列車無線設備更新	7,200	〃	2018年3月	2023年3月
	鉄道車両新造(16両)	2,400	ファイナンス・リース	2019年2月	2020年7月
	印旛郡酒々井町土地取得	1,600	借入金及び自己資金	2019年2月	未定
	鉄道車両新造(16両)	2,400	ファイナンス・リース	2020年3月	2021年9月
不動産業	(国内子会社)				
	北総鉄道株 自動列車停止装置(ATIS) C-ATIS化	2,370	借入金及び自己資金	2018年6月	2023年3月
	千葉中央駅西口ビル 建替計画	5,270	借入金及び自己資金	2018年3月	2021年10月
	錦糸町ホテル計画	7,161	〃	2019年3月	2021年12月
	墨田区押上賃貸施設計画	2,920	〃	2020年6月	2022年3月

(注) 工事計画金額については、工事負担金等を含んでおりません。

なお、工事負担金等の内訳は以下のとおりであります。

押上線(四ツ木・青砥駅間)連続立体化工事 41,074百万円

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備更新に伴うものを除き、重要な設備の除却及び売却の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	500,000,000
計	500,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	172,411,185	172,411,185	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	172,411,185	172,411,185		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年10月1日(注)	172,411	172,411		36,803		27,845

(注) 株式併合(2株を1株に併合)による減少であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		59	35	277	525	7	15,639	16,542	
所有株式数(単元)		730,144	17,754	272,867	424,494	19	278,453	1,723,731	38,085
所有株式数の割合(%)		42.36	1.03	15.83	24.63	0.00	16.15	100.00	

(注) 1 自己株式1,280,529株は「個人その他」に12,805単元、「単元未満株式の状況」に29株含まれております。

2 上記「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が95単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	19,237	11.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	8,407	4.91
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	6,008	3.51
株式会社オリエンタルランド	千葉県浦安市舞浜1-1	5,850	3.42
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	5,715	3.34
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	4,844	2.83
GOVERNMENT OF NORWAY(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2,0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿6-27-30)	4,420	2.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	2,842	1.66
JP MORGAN CHASE BANK 385151(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2-15-1)	2,445	1.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行退職給付信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	2,234	1.31
計		62,005	36.23

(注) 1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行退職給付信託口)の持株数2,234千株(持株比率1.31%)は、三井住友信託銀行株式会社が同行に委託した退職給付信託財産であり、その議決権行使の指図権は三井住友信託銀行株式会社が留保しております。

2 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及びその共同保有者から、2019年5月20日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書(変更報告書)により、2019年5月13日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として2020年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況は、株主名簿にもとづいて記載しております。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	7,243	4.20
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	4,844	2.81
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町1-12-1	2,492	1.45

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,280,500 (相互保有株式) 普通株式 2,183,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 168,909,100	1,689,091	
単元未満株式	普通株式 38,085		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	172,411,185		
総株主の議決権		1,689,091	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式95百株(議決権の数95個)及び株主名簿上は当社子会社名義となっているが実質的に保有していない株式2百株(議決権の数2個)が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 京成電鉄株式会社	千葉県市川市八幡 3 - 3 - 1	1,280,500		1,280,500	0.74
(相互保有株式) 新京成電鉄株式会社	千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山 4 - 1 - 12	1,858,500		1,858,500	1.08
関東鉄道株式会社	茨城県土浦市真鍋 1 - 10 - 8	280,000		280,000	0.16
関鉄筑波商事株式会社	茨城県土浦市上坂田字浦山 1446 - 1	45,000		45,000	0.03
計		3,464,000		3,464,000	2.01

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社子会社名義となっているが実質的に保有していない株式が2百株(議決権の数2個)あり、「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2020年1月31日)での決議状況 (取得期間 2020年2月3日)	617,049	2,458,940,265
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	617,049	2,458,940,265
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	189	803,975
当期間における取得自己株式	7	20,951

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求)				
保有自己株式数	1,280,529		1,280,536	

(注) 1 当期間における「その他(単元未満株式の買増請求)」には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買増しによる株式数は含めておりません。

2 当期間における「保有自己株式数」には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は鉄道事業を中心とする公共性の高い業種でありますため、今後の事業展開と経営基盤の強化安定に必要な内部留保資金の確保や業績等を勘案しながら、安定的かつ継続的に利益還元していくことを基本方針としております。

また、当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

この方針に基づき、当期の期末配当金は、1株につき8円50銭とし、中間配当金（8円50銭）と合わせて年間配当金は17円といたしました。

内部留保資金については、引き続き、輸送力の増強、運転保安及び旅客サービスの向上等の設備投資を計画しておりますので、これらの資金需要に備えるとともに、有利子負債の削減を図ってまいり所存であります。

また、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年10月31日 取締役会決議	1,459	8.50
2020年6月26日 定時株主総会決議	1,454	8.50

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「京成グループ理念」に基づき、安全・安心を第一に事業活動を行っており、全てのステークホルダーから信頼を獲得し、持続的な成長とグループ企業価値の最大化を実現するためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であると考えております。具体的には、経営の健全性及び透明性の観点から、意思決定の迅速化及び効率化、監督の強化、内部統制システムの整備、適時適切な情報開示について体制整備に取り組んでおります。

企業統治の体制

ア 企業統治の体制の概要

交通事業を中心とする当社においては、事業の特殊性を考慮して業務に精通した社内取締役を選任し、常勤取締役には各部門の業務執行を委嘱するほか、常勤取締役経験者を主要グループ会社の代表取締役に選任する体制を採用しております。

また、社外取締役4名を選任し、客観的・中立的な立場から有効な意見等を提供することで、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。さらに、取締役の職務の執行を監督する監査役には、常勤監査役1名を含む4名の社外監査役を選任し、取締役から独立した監査役会事務局を設置する等、監査機能の強化を図り、独立した観点から意思決定に対するチェック及び検証を行うことができる体制を整備しております。

a 取締役会

当社の取締役会は、社外取締役4名を含む12名の取締役で構成され、取締役会長を議長とし、原則として、月1回、取締役全員の出席により開催し、業務執行上重要な事項に関する意思決定を効率的に行っております。取締役については、常勤取締役に各部門の業務執行を委嘱し責任所在の明確化を図っております。

b 指名・報酬委員会

当社の指名・報酬委員会は、社外取締役2名を含む4名の取締役で構成され、取締役社長を委員長とし、取締役の指名や報酬等に係る事項についてその妥当性等を検討・答申し、取締役会の諮問機関として取締役会の機能の独立性・客観性の強化を図っております。

c 経営会議

当社の経営会議は、8名の常勤取締役に構成され、取締役社長を議長とし、原則として、週1回、常勤取締役全員の出席により開催し、取締役会規則、経営会議規則等に基づき、常勤取締役に委嘱されている業務の執行に関する審議、報告を行い、適切な業務執行を行う体制を整備しております。

d 監査役会

当社は、監査役制度を採用しております。監査役会は、社外監査役4名を含む5名の監査役（常勤監査役2名、非常勤監査役3名）で構成され、意思決定・業務執行等に関する監査体制の強化を図っております。

e コンプライアンス・リスク管理委員会

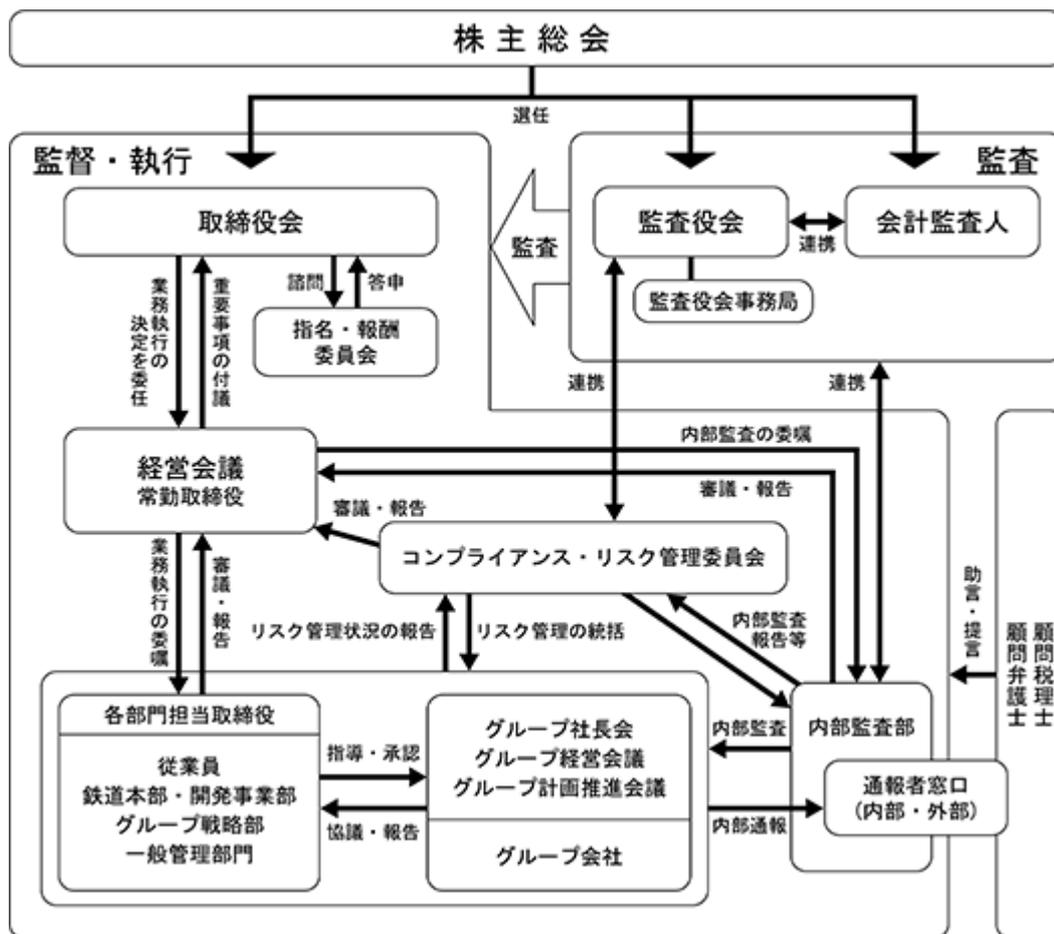
グループ全体の事業継続に影響を及ぼすリスクを統一的に監督する機関として、常勤取締役等で構成され、取締役社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会（原則年2回開催）を設置し、法令遵守の徹底と想定される様々なリスクへの組織的な対応に努めております。

各機関の構成員は次のとおりであります。

役職名	社外	氏名	取締役会	指名・報酬 委員会	経営会議	監査役会	コンプライアンス・ リスク管理委員会
代表取締役会長		三枝 紀生					
代表取締役社長		小林 敏也					
専務取締役		室谷 正裕					
常務取締役		天野 貴夫					
常務取締役		河角 誠					
常務取締役		登嶋 進					
取締役		田中 亜夫					
取締役		金子 庄吉					
取締役		古川 康信					
取締役		栃木 庄太郎					
取締役		伊藤 幸宏					
取締役		菊池 節					
常勤監査役		佐藤 賢治					
常勤監査役		広瀬 匡志					
監査役		上西 京一郎					
監査役		松山 保臣					
監査役		小林 健					
その他関係する部長							

(注) は社外取締役、または社外監査役を指しております。
は各機関の議長、委員長を指しております。
は構成員を指しております。
は構成員ではありませんが、出席し、意見を述べております。

イ 当社のコーポレート・ガバナンス体制
当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は以下のとおりであります。



ウ 内部統制システムの整備の状況

(業務の適正を確保するための体制(内部統制システムに関する基本方針))

当社は、取締役会において決議した以下の「内部統制システムに関する基本方針」に基づき内部統制システムを整備しております。

内部統制システムに関する基本方針

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - (1) グループ経営理念に基づき、法令遵守を含むグループ行動指針及び行動規準を整備し、取締役及び使用人に周知徹底する。
 - (2) 法令及び定款に適合した社内規則及び職務権限規則を整備し、取締役及び使用人に周知し、職務執行を監督する。
 - (3) 代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会を設置し、当社と子会社のコンプライアンスの取り組みを統括する。
 - (4) 行動規準に基づき、反社会的勢力とはいかなる状況下でも一切関係を持たない。
 - (5) 業務執行組織から独立した内部監査部を設置し、監査役と連携して財務報告、コンプライアンス、業務執行、業務効率等に関する内部監査を行う。
 - (6) 通報者保護に配慮した内部通報者制度を整備し、周知する。
 - (7) 財務報告に係る内部統制を業務執行組織が自ら整備、運用、評価する体制をつくり、併せてその整備・運用状況の有効性を内部監査部において評価することにより、金融商品取引法で求められる財務報告の信頼性を確保する。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - (1) 文書取扱規程を整備し、これに基づき取締役会及び経営会議の議事録、稟議書等職務の執行に関わる情報の保存及び管理を行う。
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - (1) コンプライアンス・リスク管理委員会において、事業継続に重大な影響を及ぼすリスクを統一的に評価し、対応すべきリスクを選定するとともに、個別のリスク管理体制の活動状況を統括する。
 - (2) 旅客運送の安全を確保するため、関連法令に対応した安全管理規程を制定し、安全管理体制を整備する。
 - (3) 災害・事故等に備え、災害対策規則等を整備し、定期的に訓練及び教育を行う。
 - (4) 大規模な災害、事故等が発生したときは、対策本部を設置し、迅速に対応する。
 - (5) 反社会的勢力との間に問題が発生した場合は、外部の専門機関と連携し、法的な措置も含め組織的に対応する。
 - (6) 事業継続に重大な影響を及ぼすその他のリスクについて、対応が必要な場合はコンプライアンス・リスク管理委員会の審議を経て管理部門を指定し、適宜管理体制を整備する。
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - (1) 取締役会（原則月1回開催）の決議により意思決定すべき事項と経営会議（常勤取締役で構成され、原則週1回開催）の審議により意思決定すべき事項について、取締役会規則、経営会議規則等を整備し、これに基づき職務執行の意思決定を行う。
 - (2) 職制及び職務分掌、職務権限規則を整備し、各職務の権限と責任を明確化する。
 - (3) 経営計画を決定し、これに基づき職務を執行する。
5. 当社並びに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - (1) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
子会社にグループ経営理念及びグループ行動指針に示される基本的考え方を周知し、行動規準の整備及び周知徹底を指導する。
グループ戦略部を設置するとともに、関係会社管理規程等を整備し、関係部門と連携して、子会社の管理を行う。
子会社は、必要に応じて経理規程並びに職務権限規則等の関係規程類を整備し、財務報告並びに業務執行の適正化を図る。
子会社は、コンプライアンス委員会を設置し、その議事を当社に報告する。
当社の取締役又は使用人は、必要に応じ、子会社の取締役等又は監査役に就任し、職務執行を監督する。

内部統制システムに関する基本方針

内部監査部が、子会社の内部監査を実施する。

当社及び子会社共通の内部通報窓口を設置し、周知する。

- (2) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
京成グループ社長会等を定期的に開催し、グループ経営方針の伝達と経営情報の共有等を図る。
子会社は、京成グループ経営計画規程に基づき、経営計画を策定し、これに基づき職務を執行する。
- (3) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
コンプライアンス・リスク管理委員会において、当社と子会社のリスク管理を統括する。
子会社は、京成グループ社長会等を通じ、コンプライアンス・リスク管理委員会におけるリスク評価結果を当社と共有し、対応が必要なリスク項目について、適宜管理体制を整備する。
- (4) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
関係会社管理規程において、子会社が当社に報告すべき事項を明確化し、これに基づき子会社より報告を受け、必要に応じて指導を行う。

6. 監査役職務を補助すべき使用人を置くことに関する事項

- (1) 監査役職務を補助するため、監査役会事務局を設置し、職務の補助に必要な使用人を配置する。

7. 監査役職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- (1) 監査役会事務局の使用人は、取締役の指揮・監督を受けない専任の使用人とする。
- (2) 監査役会事務局の使用人の人事については、監査役の同意を必要とする。

8. 監査役への報告に関する体制並びに報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- (1) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制
取締役及び使用人は、当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは、当該事実を監査役に報告する。
取締役及び使用人は、監査役から職務執行に関する事項の報告を求められた場合には、速やかに報告する。
- (2) 子会社の取締役等及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制
子会社の取締役等及び使用人は、当社又は当社の子会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは、当該事実を当社の監査役又はグループ戦略部に報告する。
- (3) 通報者保護に配慮した内部通報者制度に準拠し、監査役への報告を行った者に対し、不利な取扱いを行わない。

9. 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

- (1) 監査役が、職務の執行について生ずる費用の前払等を請求した時は、速やかに費用又は債務を処理する。

10. その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

- (1) 監査役は、取締役会等、取締役の職務執行上重要な会議に出席し、必要に応じ意見を述べ、重要な意思決定の過程を把握するとともに、職務執行に係る重要な書類の閲覧等を通じ、業務の執行状況を把握する。
- (2) 監査役は、会計監査人、内部監査部と定期的に会合をもち、情報を共有し、意見交換を行う。
- (3) 代表取締役社長は、監査役と定期的かつ必要に応じて会合をもち、監査の重要課題等について意思疎通を図る。

エ リスク管理体制の整備の状況

リスクの評価と対応を行う体制として、グループ全体の事業継続に影響を及ぼすリスクを統一的に監督するコンプライアンス・リスク管理委員会（原則年2回開催）を設置しております。コンプライアンス・リスク管理委員会では、全体方針を定め、管理対象とすべきコンプライアンス・リスクの選定を行い、それぞれ管理部門等の指定を行ったうえで、管理計画の承認及びその遂行状況の評価を行っております。

オ 責任限定契約の締結

当社は、各社外取締役及び各社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

会社の支配に関する基本方針

ア 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

a 当社グループの基本的な事業運営の考え方

当社グループは、鉄道事業を中心とした運輸業という極めて公共性の高い社会的インフラを提供する事業を基幹（以下「コア事業」といいます。）としており、それに伴う社会的責任を負っております。

このような社会的責任は、当社グループの事業においては、利用者の安全と利便性を確保しつつ安定的な輸送サービスを提供することによって全うすることができます。そして、そのためには、安全対策、線路整備、施設拡充、沿線開発等において、様々な事業環境の変化を見据えた中長期的視点に立った経営を行うことが必要不可欠であると考えております。

また、当社グループの事業においては、顧客、株主、取引先、従業員にとどまらず、前記の社会的責任をもたらすものとして、地域社会との調和、環境への配慮等、事業を進めるにあたり広範囲のステークホルダーの利益に最大限配慮することも重要であります。

このように、当社グループの事業は、中長期的な視点に立ち、広範囲のステークホルダーの存在に配慮した事業展開を行ってきた一つの帰結として、鉄道事業を中核としつつ、バス事業、タクシー事業を運営する運輸業や流通業、不動産業、レジャー・サービス業、建設業等幅広く事業展開しており、当社グループの企業価値は、コア事業である運輸業とこれらの関連事業との有機的な結合によって確保・向上されるべきものと考えております。

b 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、前記 a の考え方を十分に理解し、企業価値ひいては株主の皆様共同の利益を中長期的に最大化させる者でなければならないと考えております。

当社は、上場会社の株主は株式の市場での自由な取引を通じて決まるものであり、株式会社の支配権の移転を伴うような株式等の大規模な買付行為であっても、これを受け容れて大規模買付行為に応じるか否かの判断は、最終的には個々の株主の皆様の判断に委ねられるべきものと考えております。

しかし、当社株式の大量取得行為や買付提案の中には、「企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの」、「株主の皆様に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの」や「買付に応じるか否かについて判断するための十分な情報や時間を提供しないもの」等も想定されます。

当社としては、このような大規模な買付に対しては、株主の皆様のために適切な措置を講じることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

イ 基本方針の実現に資する特別な取組み

a グループ経営理念

当社グループは、前記の考え方をもとに、日々の事業活動を通じて、企業としての社会的責任を果たし、健全な事業成長を遂げることに、社会の発展に貢献することを目指しております。そのため、「京成グループは、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。」という「グループ経営理念」を策定するとともに、この理念を実現するため、安全・接客・成長・企業倫理・環境の5項目からなる「グループ行動指針」を定め、企業価値の確保・向上に努めております。

b グループ経営計画

当社グループでは、前記のグループ経営理念のもと、グループ全体の経営の方針と目標を明確にするため、3年毎にグループ中期経営計画を作成しております。この中で、グループシナジーを最大限発揮しうる体制の強化を図り、当社グループ全体の企業価値の最大化を目指すことを基本方針としております。

2019年度から2021年度にわたる「E4プラン」においては、「グループ経営強化による収益拡大の確実な実現」、「安全かつ安心なサービスの提供」及び「社会的要請に対応した経営推進体制の確立」の基本方針のもと、「地域社会との共生による京成グループのプレゼンス強化」、「グループ経営体制の充実並びにコーポレート・ガバナンスの強化」、「インバウンド市場の深耕」、「既存事業の強化による収益拡大」、「安全・安心の確保並びにサービス品質の向上」及び「新たな成長ビジョンの確立」を基本戦略としてグループ全体の企業価値の最大化を追求いたします。

c 利益還元の見え方

当社グループは鉄道事業を中心とする公共性の高い業種であるため、当社としては、今後の事業展開と経営基盤の強化安定に必要な内部留保資金の確保や業績等を勘案しながら、安定的かつ継続的に利益還元していくことを基本方針としております。

d コーポレート・ガバナンスの強化に向けた取組み

当社は、各ステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、内部統治構造の機能及び制度を一層強化・改善・整備しながら、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。具体的には、業務の執行を迅速かつ効果的に行うため、内部統制機能の充実、職務権限規則等の運用を行うことにより、その実効性を図るとともに、コンプライアンスを含むリスク管理、経営の透明性確保や公正な情報開示等の取組みを行っております。今後とも当社のガバナンス体制のより一層の強化を進めてまいります。

当社は監査役制度を採用しており、取締役会、監査役会及び会計監査人を設置しております。当社の取締役会は社外取締役4名を含む12名で構成しております。なお、取締役の任期を1年とすることにより、業務執行の監視体制の強化を図っております。監査役会は5名で構成しており、4名は社外監査役となっております。監査役は取締役会のほか重要な会議に出席し、取締役の職務執行状況を監査するとともに、内部監査部及び会計監査人と緊密な連携を保ち、情報交換を行い、相互の連携を深め、監査の有効性・効率性を高めております。

ウ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、大規模買付行為を行おうとする者に対しては、当社の企業価値ひいては株主の皆様共同の利益を確保するために、株主の皆様が適切に判断するための必要かつ十分な情報提供を求め、取締役会の意見等を開示し、株主の皆様が検討するための時間の確保に努める等、金融商品取引法、会社法その他関係法令の範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

エ 前記の取組みが基本方針に沿い、当社グループの企業価値及び株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

前記イ、ウに記載した企業価値の向上のための取組みは、当社グループの企業価値及び株主共同の利益を持続的に確保・向上させるための具体的方策として策定されたものであります。したがって、これらの取組みは、基本方針に沿い、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

取締役に関する事項

ア 取締役の定数

当社の取締役は、20名以内とする旨を定款に定めております。

イ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議に関する事項

ア 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的としております。

イ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって、市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的としております。

ウ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

エ 取締役の責任免除

当社は、取締役が期待される職務を適切に行えるよう、取締役（取締役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、取締役会決議によって、法令の定める額を限度としてその責任を免除することができる旨を定款に定めております。

オ 監査役の責任免除

当社は、監査役が期待される職務を適切に行えるよう、監査役（監査役であった者を含む。）の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、取締役会決議によって、法令の定める額を限度としてその責任を免除することができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 16名 女性 1名 (役員のうち女性の比率 5.9%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
代表取締役会長	三 枝 紀 生	1949年 2月11日生	1971年 4月 1999年 7月 2004年 6月 2006年 6月 2008年 6月 2008年 6月 2010年 6月 2011年 6月 2017年 6月	当社入社 当社人事部付部長 当社取締役 当社常務取締役 当社代表取締役(現) 当社専務取締役 当社取締役副社長 当社取締役社長 当社取締役会長(現)	(注)3	793
代表取締役社長	小 林 敏 也	1959年 7月30日生	1982年 4月 2008年 6月 2010年 6月 2013年 6月 2015年 6月 2015年 6月 2017年 6月	当社入社 当社鉄道本部計画管理部長 当社取締役 当社常務取締役 当社代表取締役(現) 当社専務取締役 当社取締役社長(現)	(注)3	413
専務取締役 鉄道本部長	室 谷 正 裕	1956年 3月15日生	1979年 4月 2013年 8月 2014年10月 2017年 6月 2020年 6月 (主要な兼職) 2018年 5月 2018年 6月	運輸省入省 国土交通省運輸安全委員会 事務局長 一般社団法人日本民営鉄道協会 常務理事 当社常務取締役 当社専務取締役(現) 千葉ニュータウン鉄道株式会社 取締役社長 北総鉄道株式会社取締役社長	(注)3	77
常務取締役 内部監査・ 総務・人事担当	天 野 貴 夫	1965年 9月21日生	1988年 4月 2011年 7月 2015年 6月 2018年 6月	当社入社 当社鉄道本部運輸部長 当社取締役 当社常務取締役(現)	(注)3	129
常務取締役 経理担当	河 角 誠	1967年 3月 8日生	1989年 4月 2012年 7月 2016年 6月 2019年 6月 (主要な兼職) 2020年 6月	当社入社 当社総務人事部付部長 当社取締役 当社常務取締役(現) 株式会社コアエルム京成 取締役社長	(注)3	117
常務取締役 開発担当	登 嶋 進	1967年 7月13日生	1990年 4月 2013年 7月 2016年 6月 2019年 6月 (主要な兼職) 2018年 6月	当社入社 当社総務人事部長 当社取締役 当社常務取締役(現) 京成不動産株式会社取締役社長	(注)3	92
取締役 鉄道副本部長 兼 鉄道本部安全推進部長	田 中 亜 夫	1965年 8月29日生	1989年 4月 2013年 7月 2018年 6月 (主要な兼職) 2018年 5月	当社入社 当社鉄道本部車両部長 当社取締役(現) 日暮里駅整備株式会社専務取締役	(注)3	88
取締役 経営統括・ グループ戦略担当	金 子 庄 吉	1967年 2月17日生	1990年 4月 2017年 6月 2018年 6月	当社入社 当社内部監査部長兼経営統括部長 当社取締役(現)	(注)3	76

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
取締役	古川 康信	1953年10月11日生	1980年9月 2010年8月 2012年8月 2014年6月 2015年6月	公認会計士登録 新日本有限責任監査法人 経営専務理事 同監査法人シニア・アドバイザー 当社取締役(現) 日本精工株式会社取締役	(注)3	
取締役	栃木 庄太郎	1946年11月11日生	1973年4月 2007年7月 2009年4月 2009年4月 2009年4月 2018年6月	検事任官 福岡高等検察庁検事長 公益財団法人国際研修協力機構 理事長 弁護士登録(第一東京弁護士会) 栃木法律事務所開設 同事務所弁護士(現) 当社取締役(現)	(注)3	
取締役	伊藤 幸宏	1954年2月3日生	1978年4月 2006年1月 2006年6月 2009年6月 2012年10月 2019年6月	株式会社三和銀行入行 株式会社三菱東京UFJ銀行執行役員 エム・ユー・フロンティア 債権回収株式会社常務取締役 日新製鋼株式会社監査役 日新製鋼ホールディングス 株式会社監査役 当社取締役(現)	(注)3	
取締役	菊池 節	1950年4月9日生	1976年11月 2016年6月 2016年9月 2016年10月 2020年3月 2020年6月	株式会社南悠商社監査役 パウダーテック株式会社 取締役会長(現) 株式会社南悠商社取締役社長(現) 京葉瓦斯株式会社取締役会長(現) K&Oエナジーグループ株式会社 取締役(現) 当社取締役(現)	(注)3	
常勤監査役	佐藤 賢治	1959年6月8日生	1982年4月 2007年7月 2011年6月 2014年5月 2019年6月	当社入社 当社総務人事部付部長 当社取締役 株式会社京成ストア取締役社長 当社常勤監査役(現)	(注)4	148
常勤監査役	広瀬 匡志	1959年2月19日生	1981年4月 2012年4月 2013年4月 2016年6月 2020年6月	三井信託銀行株式会社入行 三井住友信託銀行株式会社 常務執行役員 同行監査役 日本株主データサービス株式会社 取締役社長 当社常勤監査役(現)	(注)5	
監査役	上西 京一郎	1958年1月15日生	1980年4月 2009年4月 2009年6月	株式会社オリエントランド入社 同社取締役社長兼COO(現) 当社監査役(現)	(注)6	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
監査役	松山保臣	1956年11月14日生	1979年4月 2011年4月 2013年6月 2013年6月 2016年6月 2017年6月 2019年6月 2019年6月	日本生命保険相互会社入社 同社取締役専務執行役員 株式会社星和ビジネスリンク 取締役社長 三菱瓦斯化学株式会社監査役(現) 当社監査役(現) ニッセイ情報テクノロジー 株式会社取締役会長 公益財団法人 ニッセイ文化振興財団理事長(現) 公益財団法人東京オペラシティ 文化財団理事長(現)	(注)7	3
監査役	小林健	1955年4月11日生	1979年4月 2010年6月 2011年6月 2014年6月 2016年6月 2018年6月 2019年6月 2019年6月	日本開発銀行入行 株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員 同行監査役 日本原燃株式会社 取締役常務執行役員 同社常務執行役員 株式会社日本政策投資銀行 設備投資研究所顧問 D B J キャピタル株式会社 取締役会長(現) 当社監査役(現)	(注)8	
計						1,936

- (注) 1 取締役古川康信、栃木庄太郎、伊藤幸宏、菊池節は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 常勤監査役広瀬匡志、監査役上西京一郎、松山保臣及び小林健は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 常勤監査役佐藤賢治の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 常勤監査役広瀬匡志の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役上西京一郎の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役松山保臣の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 監査役小林健の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

社外役員の状況

当社の取締役12名のうち4名が社外取締役であります。また、監査役5名のうち4名が社外監査役（常勤監査役1名、非常勤監査役3名）であります。社外取締役及び社外監査役により、当社の経営執行等の適法性について、客観的・中立的な立場から有効な意見等が提供されるものと考えております。

なお、当社は、東京証券取引所が定める独立役員の独立性に関する判断基準等を参考に、社外役員（社外取締役及び社外監査役）の独立性を判断する基準を、以下のとおり定めております。

（社外役員の独立性に関する基準）

当社における独立性のある社外役員は、原則として、次のいずれの要件にも該当しない者とする。

（1）過去3事業年度において下記a～fのいずれかに該当していた者

- a．当社の主要な取引先（1事業年度当たりの取引額が、当社の連結営業収益の2%以上又は当該取引先の連結営業収益の2%以上となる取引先）である者又はその業務執行者（業務執行取締役、執行役、支配人その他の使用人等をいう。以下、同じ。）
- b．当社の主要な借入先（各事業年度末において当社の資金調達につき代替性がない程度に依存している金融機関その他の大口債権者）である者又はその業務執行者
- c．当社から、コンサルタント、会計専門家又は法律専門家として役員報酬以外に1事業年度当たり1,000万円を超える金銭その他の財産上の利益を得ている者
- d．上記c．の利益を得ている者が団体である場合は、1事業年度当たりの当社から当該団体に対する支払額が当該団体の年間収入の10%を超える団体に所属する者
- e．当社の主要株主（議決権保有比率の10%以上を保有する株主）である者又はその業務執行者
- f．当社から1事業年度当たり1,000万円を超える寄付を受けている者又はその業務執行者

（2）次に掲げる者の配偶者又は二親等内の親族

- a．上記（1）に掲げる者
- b．現在又は直近3年以内の期間において当社又は当社の子会社の業務執行者であった者
- c．現在又は直近3年以内の期間において当社の子会社の非業務執行取締役であった者

社外取締役の古川康信氏は、EY新日本有限責任監査法人の元シニア・アドバイザーであります。同氏は、EY新日本有限責任監査法人の出身者であります。同氏及び同団体に対して、当社が取締役報酬以外に多額の金銭その他の財産を支払っている事実はありません。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外取締役の栃木庄太郎氏は、栃木法律事務所の弁護士であります。同氏及び同団体に対して、当社が取締役報酬以外に多額の金銭その他の財産を支払っている事実はありません。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外取締役の伊藤幸宏氏は、株式会社三菱UFJ銀行の元執行役員であります。同氏は、当社の資金借入先である株式会社三菱UFJ銀行の出身者であります。当社は、同行からの借入金が当社の意思決定に影響を及ぼすことがないと認識しております。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外取締役の菊池節氏は、京葉瓦斯株式会社の取締役会長であります。同氏は、当社の取引先である京葉瓦斯株式会社の取締役会長であります。当事業年度における取引額は当社及び同社双方の売上高の1%未満と僅少です。なお、当社は同社と同一の事業の部類に属する取引（土地建物の売買及び賃貸業）を行っておりますが、同社の主要な事業はガス・熱・電気の供給であるため、当社と同社との間に競業関係はありません。従って、同氏は当社との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外監査役（常勤監査役）の広瀬匡志氏は、三井住友信託銀行株式会社の元常務執行役員であります。同氏は、当社の資金借入先である三井住友信託銀行株式会社の出身者であります。当社は、同行からの借入金が当社の意思決定に影響を及ぼすことがないと認識しております。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外監査役（非常勤監査役）の松山保臣氏は、日本生命保険相互会社の元取締役であります。同氏は、当社の資金借入先である日本生命保険相互会社の出身者であります。従って、当社は、同社からの借入金が当社の意思決定に影響を及ぼすことがないと認識しております。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外監査役（非常勤監査役）の上西京一郎氏は、株式会社オリエンタルランドの取締役社長兼ＣＯＯであります。同氏は、当社の取引先である株式会社オリエンタルランドの取締役社長兼ＣＯＯであります。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

社外監査役（非常勤監査役）の小林健氏は、株式会社日本政策投資銀行の元常務執行役員であります。同氏は、当社の資金借入先である株式会社日本政策投資銀行の出身者であります。従って、当社は同氏との間に特別の利害関係を有するものではなく、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断しております。

各氏の当社株式の所有株式数につきましては、「第４ 提出会社の状況 ４ コーポレート・ガバナンスの状況等 (2) 役員の状況 役員一覧」に記載しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会等を通じて内部監査、監査役監査、会計監査等の状況を把握し、客観的立場から監督機能を果たしているほか、内部統制システムに関する基本方針の運用状況について内部統制部門から報告を受けております。

社外監査役は、取締役会への出席に加え、監査役会において常勤監査役より監査の実施状況及び結果について報告を受けると共に、内部統制部門から内部統制システムやコンプライアンスに関する管理状況等について報告を求め、相互連携を図りつつ監査役監査の実効性を確保することに努めております。また、会計監査人から定期的に内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、積極的な意見、情報交換を行っております。

なお、当社では、社外取締役は総務部秘書課が、社外監査役は監査役会事務局がそれぞれ連絡・調整窓口となり、職務の遂行に必要となる情報・資料を速やかに提供しているほか、必要に応じて情報交換を行う体制を整えております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

a 監査役監査の組織、人員及び手続

監査役会は、社外監査役4名を含む5名の監査役（常勤監査役2名、非常勤監査役3名）で構成されており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する監査役が含まれております。また、監査役の職務を補助するため、取締役の指揮・監督を受けない専任のスタッフ3名からなる監査役会事務局を設置しております。

監査役は、監査役会の定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めております。

b 監査役及び監査役会の活動状況

当事業年度において当社は監査役会を11回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数
河上 守	11回	11回
佐藤 賢治	8回	8回
上西 京一郎	11回	10回
松山 保臣	11回	11回
小林 健	8回	7回

(注) 1 河上守については、2020年6月26日に任期満了により退任しております。

2 佐藤賢治及び小林健については、当事業年度中に開催された監査役会のうち、2019年6月27日の就任後に開催されたもののみを対象としております。

監査役会において、監査方針と監査計画の策定、監査報告書の作成のほか、会計監査人の選任・報酬等について検討いたしました。

また、常勤監査役は、取締役会、経営会議、コンプライアンス・リスク管理委員会等の重要な会議に出席し、付議事項及び運営手続き等について確認するとともに、取締役の職務の執行状況と内容の把握・検証を行い、必要に応じて意見を述べました。

内部監査の状況

業務執行組織から独立した内部監査を実施する体制として内部監査部（8名）を設置し、コンプライアンス・リスク管理委員会の審議を経て決定した年度計画に基づき、監査役と連携してグループ会社を含む財務報告に関する内部監査、コンプライアンスに関する内部監査、業務執行に関する内部監査、業務効率に関する内部監査を計画的に実施しております。指摘事項があれば速やかに是正させ、結果をコンプライアンス・リスク管理委員会及び経営会議に報告しております。また、コンプライアンス・リスク管理体制の実効性を高めるため、法令の違反行為等の通報窓口を内部並びに外部に設置しており、通報内容に応じて迅速に対応する体制を整えております。

会計監査の状況

a 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

b 継続監査期間

35年間

c 業務を執行した公認会計士

滝沢 勝己
古賀 祐一郎

d 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士12名、その他17名であります。

e 監査法人の選定方針と理由

当社の会計監査人に必要とされる専門性、独立性、及び品質管理体制を有していることに加え、鉄道事業を始めとした当社グループの多様な事業活動への理解度等を総合的に勘案の上、選定しております。

f 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会規則第18条及び監査役監査基準第34条並びに会計監査人の評価・選定基準に基づき、会計監査人の職務遂行状況、監査体制、独立性及び専門性等を評価した結果、「会計監査人の解任または不再任の決定の方針」に定める事由に該当する事実はなく、かつ適切に監査業務が実施されていることを確認しております。

監査報酬の内容等

a 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	71	3	66	9
連結子会社	37	3	60	7
計	108	6	127	17

当社は、会計監査人に対して、非監査業務として、前連結会計年度にコンフォートレター作成業務を委託しており、当連結会計年度に「収益認識に関する会計基準」適用に係るコンサルティング業務を委託しております。

また、当連結会計年度における、当社の監査証明業務に基づく報酬については、上記以外に、前連結会計年度に係る追加報酬の額が4百万円あります。

b 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬 (aを除く)

該当事項はありません。

c その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d 監査報酬の決定方針

該当事項はありません。

e 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査役会は、会計監査人から提示を受けた当連結会計年度の監査契約の内容及び必要な監査品質を維持するための監査体制・監査時間は妥当であり、それらをもとに算定された報酬額も妥当であると判断し、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の取締役報酬は、役職位及び経営環境や業績等を勘案して定める報酬部分に加え、自社株取得目的報酬部分で構成され、これにより中長期的視点による企業価値向上への各取締役の貢献意欲が高まるものと考えております。なお、賞与及び退職慰労金の支給はありません。

取締役報酬に係る基本方針につきましては、取締役会の下に設置した独立社外取締役を主要な構成員とし取締役社長が委員長を務める指名・報酬委員会で内容の妥当性を検討し取締役会へ答申、社長が決定しております。また、各取締役の報酬につきましては、指名・報酬委員会で原案の妥当性を検討し取締役会へ答申、取締役会で社長へ一任する旨の決議を得た上で支給しております。監査役報酬につきましては、独立社外監査役が出席する監査役会にて報酬を協議し決定しております。

取締役報酬につきましては、2010年6月29日開催の第167期定時株主総会において取締役（当社定款の定めにより20名以内）の報酬額について年額400百万円以内として決議しており、監査役報酬につきましては、2006年6月29日開催の第163期定時株主総会において監査役（当社定款の定めにより5名以内）の報酬額について月額7百万円以内として決議しております。

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	255	255			14
監査役 (社外監査役を除く)	18	18			1
社外役員	75	75			9

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とするものを純投資目的である投資株式に、保有先との取引・協力関係の構築、維持強化がなされ、当社及び当社グループの中長期的な企業価値向上に資することを目的とするものを純投資目的以外の目的である投資株式に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

保有先との取引・協力関係の構築、維持強化がなされ、当社及び当社グループの中長期的な企業価値向上に資すると判断した場合に取得・保有する方針としております。なお、毎年6月の取締役会で個別の保有株式について現在の取引・協力関係の状況等を報告し、受取配当金に基づく利回りや、保有先の株主資本利益率（ROE）と資本コスト（WACC）との比較等により、定性・定量的な観点から当該株式の保有に伴う便益やリスク、中長期的な経済合理性を精査のうえ保有意義を検証しております。検証の結果、保有意義が無いと判断した場合は速やかに株式の処分・縮減を行います。

b 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	31	2,204
非上場株式以外の株式	17	9,095

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	0	保有先が運営する施設を利用するため。
非上場株式以外の株式	1	499	保有先との連携による収益拡大、ノウハウ共有等が見込めることから、当社及び当社グループの中長期的な企業価値向上に資すると判断したため。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式		

c 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
京浜急行電鉄(株)	1,228,500	1,228,500	相互直通運転を行っており、運輸業での共同誘客の他、共通する事業におけるノウハウ共有等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	2,232	2,307		
東武鉄道(株)	369,400	369,400	運輸業での共同誘客の他、共通する事業におけるノウハウ共有等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	1,392	1,180		
京王電鉄(株)	211,500	211,500	タクシー事業で業務提携をしており、運輸業での共同誘客の他、共通する事業におけるノウハウ共有等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	1,351	1,512		
南海電気鉄道(株)	365,800	365,800	運輸業での共同誘客の他、共通する事業におけるノウハウ共有等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	899	1,117		
三井不動産(株)	410,000	410,000	不動産業、流通業での建物賃貸借の他、運輸業における同社施設への輸送受託等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	766	1,140		
ANAホールディングス(株)	245,300	245,300	運輸業、レジャー業での共同誘客の他、不動産業での建物賃貸借等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	647	995		
西日本鉄道(株)	204,000		運輸業・不動産業をはじめとする共通の事業における取引・協力関係の維持強化のため保有しております。 関係強化による収益拡大、ノウハウ共有等が見込めると判断し当事業年度において新たに株式を取得しております。 2	有
	542			
(株)西武ホールディングス	317,700	317,700	運輸業での共同誘客の他、共通する事業におけるノウハウ共有等の取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	無 3
	377	615		
三菱電機(株) 1	179,000	179,000	運輸業・建設業における取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	238	254		
(株)千葉銀行 1	490,000	490,000	借入先金融機関との取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	231	294		
(株)めぶきフィナンシャルグループ 1	651,690	651,690	借入先金融機関との取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	無 3
	143	184		
(株)高島屋 1	99,000	99,000	流通業における取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	96	145		
(株)オリエンテーション 1	603,500	603,500	提携カードを発行しており、不動産業・その他の事業における取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	73	68		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)京葉銀行 1	111,500	111,500	借入先金融機関との取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	有
	59	72		
三井住友トラスト・ホールディングス(株) 1	7,923	7,923	借入先金融機関との取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	無 3
	24	31		
(株)三菱UFJ フィナンシャル・グループ 1	25,600	25,600	借入先金融機関との取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	無 3
	10	14		
(株)みずほフィナンシャルグループ 1	60,710	60,710	借入先金融機関との取引・協力関係を維持強化するため保有しております。 2	無 3
	7	10		

- (注) 1 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、上位17銘柄について記載しております。
- 2 定量的な保有効果の記載は困難ですが、毎年6月の取締役会で個別の保有株式について現在の取引・協力関係の状況等を報告し、受取配当金に基づく利回りや、保有先の株主資本利益率(ROE)と資本コスト(WACC)との比較等により、当該株式の保有に伴う便益やリスク、中長期的な経済合理性を精査のうえ保有意義を検証しております。
- 3 直接の保有はありませんが、傘下の子会社が当社株式を保有しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則並びに「鉄道事業会計規則」（昭和62年運輸省令第7号）により作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）の連結財務諸表及び事業年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等について適確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,214	27,084
受取手形及び売掛金	22,325	22,129
分譲土地建物	7,564	6,861
商品	2,135	2,187
仕掛品	647	799
原材料及び貯蔵品	2,751	3,053
その他	11,822	3 11,940
貸倒引当金	33	27
流動資産合計	72,428	74,027
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3 279,404	3 290,454
機械装置及び運搬具（純額）	3 21,786	3 24,978
土地	3 164,018	3 180,720
リース資産（純額）	33,072	38,635
建設仮勘定	31,145	37,272
その他（純額）	3 2,657	3 3,284
有形固定資産合計	1, 4 532,084	1, 4 575,345
無形固定資産		
リース資産	1,368	1,214
その他	3 9,434	3 10,683
無形固定資産合計	10,802	11,898
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 3 219,354	2, 3 226,131
長期貸付金	579	371
繰延税金資産	13,763	13,534
その他	3 3,871	3 4,313
貸倒引当金	131	145
投資その他の資産合計	237,437	244,204
固定資産合計	780,324	831,448
繰延資産	272	239
資産合計	853,025	905,716

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 20,864	3 22,147
短期借入金	3 63,474	3 55,832
コマーシャル・ペーパー		16,000
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
リース債務	5,043	6,442
未払法人税等	5,548	4,500
前受金	20,727	24,406
賞与引当金	3,038	3,409
役員賞与引当金	37	53
その他	35,157	33,273
流動負債合計	163,891	176,065
固定負債		
社債	60,000	50,450
長期借入金	3 108,289	3 128,276
鉄道・運輸機構長期未払金	3 49,470	3 46,518
リース債務	21,956	26,913
繰延税金負債	1,538	1,572
役員退職慰労引当金	318	358
退職給付に係る負債	33,218	35,600
その他	3 11,440	11,297
固定負債合計	286,233	300,987
負債合計	450,124	477,052
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,803	36,803
資本剰余金	28,548	28,365
利益剰余金	322,842	350,556
自己株式	2,050	3 5,532
株主資本合計	386,144	410,192
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,730	2,390
繰延ヘッジ損益		16
退職給付に係る調整累計額	1,410	1,570
その他の包括利益累計額合計	3,319	837
非支配株主持分	13,436	17,634
純資産合計	402,901	428,664
負債純資産合計	853,025	905,716

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業収益	261,553	274,796
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	193,314	207,148
販売費及び一般管理費	1 36,630	1 39,328
営業費合計	229,944	246,476
営業利益	31,608	28,320
営業外収益		
受取利息	144	247
受取配当金	284	428
持分法による投資利益	20,211	13,950
雑収入	1,556	1,932
営業外収益合計	22,196	16,558
営業外費用		
支払利息	2,492	2,426
雑支出	592	746
営業外費用合計	3,084	3,173
経常利益	50,720	41,705
特別利益		
負ののれん発生益		1,427
工事負担金等受入額	1,147	695
受取保険金	6	264
投資有価証券売却益	2 418	
その他	42	16
特別利益合計	1,614	2,404
特別損失		
固定資産除却損	3 392	3 973
固定資産圧縮損	4 1,078	4 648
減損損失	5 98	5 441
投資有価証券評価損	6 1	6 422
段階取得に係る差損		362
その他	199	303
特別損失合計	1,770	3,151
税金等調整前当期純利益	50,563	40,958
法人税、住民税及び事業税	10,180	9,071
法人税等調整額	65	179
法人税等合計	10,115	9,250
当期純利益	40,448	31,707
非支配株主に帰属する当期純利益	1,805	1,596
親会社株主に帰属する当期純利益	38,642	30,110

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)	
当期純利益	40,448		31,707	
その他の包括利益				
その他有価証券評価差額金	182		983	
退職給付に係る調整額	1,451		10	
持分法適用会社に対する持分相当額	27		1,435	
その他の包括利益合計	1	1,241	1	2,430
包括利益	39,207		29,276	
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益	37,406		27,693	
非支配株主に係る包括利益	1,800		1,583	

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	36,803	28,538	286,704	2,049	349,997
当期変動額					
剰余金の配当			2,662		2,662
親会社株主に帰属する 当期純利益			38,642		38,642
連結範囲の変動			157		157
連結子会社株式の 取得による持分の増減					
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		9			9
連結子会社と非連結子会社 との合併に伴う変動					
自己株式の取得				0	0
連結子会社からの自己株式 の取得による増減					
持分法適用会社に対する 持分変動に伴う自己株式 の増減					
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計		9	36,137	0	36,147
当期末残高	36,803	28,548	322,842	2,050	386,144

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	4,488	69	138	4,556	11,869	366,423
当期変動額						
剰余金の配当						2,662
親会社株主に帰属する 当期純利益						38,642
連結範囲の変動						157
連結子会社株式の 取得による持分の増減						
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動						9
連結子会社と非連結子会社 との合併に伴う変動						
自己株式の取得						0
連結子会社からの自己株式 の取得による増減						
持分法適用会社に対する 持分変動に伴う自己株式 の増減						
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	242	69	1,549	1,236	1,567	331
当期変動額合計	242	69	1,549	1,236	1,567	36,478
当期末残高	4,730		1,410	3,319	13,436	402,901

当連結会計年度（自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	36,803	28,548	322,842	2,050	386,144
当期変動額					
剰余金の配当			3,083		3,083
親会社株主に帰属する 当期純利益			30,110		30,110
連結範囲の変動		44	631	2,244	1,568
連結子会社株式の 取得による持分の増減		30			30
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		56			56
連結子会社と非連結子会 社との合併に伴う変動			54		54
自己株式の取得				0	0
連結子会社からの自己株 式の取得による増減		315		1,229	1,545
持分法適用会社に対する 持分変動に伴う自己株式 の増減				7	7
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計		183	27,713	3,482	24,047
当期末残高	36,803	28,365	350,556	5,532	410,192

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	4,730		1,410	3,319	13,436	402,901
当期変動額						
剰余金の配当						3,083
親会社株主に帰属する 当期純利益						30,110
連結範囲の変動						1,568
連結子会社株式の 取得による持分の増減						30
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動						56
連結子会社と非連結子会 社との合併に伴う変動						54
自己株式の取得						0
連結子会社からの自己株 式の取得による増減						1,545
持分法適用会社に対する 持分変動に伴う自己株式 の増減						7
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	2,339	16	159	2,482	4,197	1,714
当期変動額合計	2,339	16	159	2,482	4,197	25,762
当期末残高	2,390	16	1,570	837	17,634	428,664

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	50,563	40,958
減価償却費	25,603	29,085
減損損失	98	441
固定資産圧縮損	1,078	648
固定資産除却損	756	957
投資有価証券評価損益(は益)	1	422
受取利息及び受取配当金	428	676
支払利息	2,492	2,426
固定資産売却損益(は益)	101	110
投資有価証券売却損益(は益)	418	
持分法による投資損益(は益)	20,211	13,950
負ののれん発生益		1,427
段階取得に係る差損益(は益)		362
工事負担金等受入額	1,147	695
たな卸資産の増減額(は増加)	1,276	537
その他	1,803	1,615
小計	55,207	60,594
利息及び配当金の受取額	3,554	4,090
利息の支払額	2,493	2,494
法人税等の支払額	10,416	10,703
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,851	51,487
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	53,514	47,303
固定資産の売却による収入	259	116
工事負担金等受入による収入	2,994	3,294
投資有価証券の取得による支出	4,112	1,171
投資有価証券の売却による収入	1,221	
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出		2 1,338
事業譲受による支出		1,698
その他	279	22
投資活動によるキャッシュ・フロー	53,430	48,076
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,735	768
長期借入れによる収入	5,199	23,850
長期借入金の返済による支出	18,760	20,691
コマーシャル・ペーパーの増減額(は減少)		16,000
社債の発行による収入	29,810	
社債の償還による支出		10,000
鉄道・運輸機構未払金の返済による支出	2,879	2,911
リース債務の返済による支出	4,882	6,084
配当金の支払額	2,662	3,083
その他	313	720
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,246	4,411
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	332	1,000
現金及び現金同等物の期首残高	24,417	25,018
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	95	2,107
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	838	549
現金及び現金同等物の期末残高	1 25,018	1 26,675

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

80社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称

(株)京成情報システム、鋸山ロープウェイ(株)

連結の範囲から除いた理由

いずれも小規模であり、合計の総資産、営業収益、持分に見合う当期純損益及び持分に見合う利益剰余金等は
いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

(3) 連結の範囲の変更

当連結会計年度において、当社が公開買付けにより持分法適用関連会社であった関東鉄道(株)の株式を追加取得したことに伴い、同社及び同社の連結子会社14社を連結の範囲に含めたほか、千葉県・茨城県内のタクシー事業の再編に伴い新設した京成タクシーホールディングス(株)及び従来の非連結子会社5社を連結の範囲に含めております。

また、東京BRT(株)、帝都三信交通(株)及び帝都三信大森交通(株)を新設したことに伴い連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数

5社

主要な会社等の名称

(株)オリエンタルランド、新京成電鉄(株)

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

(株)京成情報システム、鋸山ロープウェイ(株)、日暮里駅整備(株)

持分法を適用しない理由

持分に見合う当期純損益及び持分に見合う利益剰余金等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。

(3) 持分法適用の範囲の変更

当連結会計年度において、当社が公開買付けにより株式を追加取得したことに伴い、関東鉄道(株)を連結の範囲に含めたため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、京成電設工業(株)の決算日は12月末日であり、帝都自動車交通(株)、(株)京成ストアほか39社の決算日は2月末日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引等については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法により評価しております。

デリバティブ

時価法により評価しております。

たな卸資産

分譲土地建物及び未成工事支出金は、個別法に基づく原価法により、その他は主として売価還元法に基づく原価法により評価しております。

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しております。)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

取得価額で約80%が定額法により、約20%が定率法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 5～60年

機械装置及び運搬具 5～20年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

営業債権・貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給にあてるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与の支給にあてるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他の工事

工事完成基準

(6) 鉄道事業における工事負担金等の会計処理の方法

鉄道事業において固定資産の取得のために受け入れた工事負担金等は、工事完成時に当該固定資産の取得原価から直接減額しております。なお、連結損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減じた額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金

ヘッジ方針

資金担当部門が決裁責任者の承認を得て、ヘッジ対象に係る金利変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、金利の変動に伴うキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定されるため、有効性の評価を省略しております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

主として5年間の均等償却を行っております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。

支払利息の原価算入

分譲土地建物の開発事業に係る支払利息の一部を取得原価に算入しております。

なお、当連結会計年度において取得原価に算入した額はありません。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準)

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日)

(1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(会計上の見積りの開示に関する会計基準)

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)

(1) 概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

「受取保険金」及び「投資有価証券評価損」は、その金額に重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度において、「特別利益」の「その他」に表示していた48百万円は、「受取保険金」6百万円、「その他」42百万円として、「特別損失」の「その他」に表示していた201百万円は、「投資有価証券評価損」1百万円、「その他」199百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

「投資有価証券評価損益(は益)」は、その金額に重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた1,802百万円は、「投資有価証券評価損益(は益)」1百万円、「その他」1,803百万円として組み替えております。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、主に運輸業(鉄道・バス事業)において、成田空港関連輸送の需要減等により、当連結会計年度の業績に影響を与えております。

翌連結会計年度以降の業績に与える影響については、収束時期等を予想することが困難なことから、2020年度中は当該影響が継続するものの、2021年度には感染拡大前の状況に戻ると仮定しており、固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性等の判断にあたっては、当該仮定による会計上の見積りを行っております。

なお、当該仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合は、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
	425,216百万円	441,242百万円

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	204,359百万円	212,087百万円

3 担保資産及び担保付債務

(イ)財団

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	199,070百万円	200,283百万円
機械装置及び運搬具	13,244	15,979
土地	72,058	74,705
有形固定資産その他	1,307	1,745
無形固定資産その他	1,561	1,561
計	287,242	294,276

上記資産を下記の債務の担保に供しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
短期借入金	5百万円	
長期借入金 (1年内返済額を含む)	48,177	49,352百万円
鉄道・運輸機構長期未払金 (1年内返済額を含む)	52,354	49,442
計	100,536	98,795

(口)その他

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
流動資産その他		181百万円
建物及び構築物	2,265百万円	2,663
土地	3,474	4,203
投資有価証券	233	775
投資その他の資産その他	20	20
自己株式		272
計	5,993	8,116

上記資産を下記の債務の担保に供しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
支払手形及び買掛金	18百万円	17百万円
短期借入金	4,347	5,339
長期借入金 (1年内返済額を含む)	326	3,484
固定負債その他	567	
計	5,259	8,841

4 固定資産の取得原価から控除した工事負担金等累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
	162,040百万円	162,322百万円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給与	6,227百万円	給与	6,681百万円
賞与引当金繰入額	672	賞与引当金繰入額	746
役員賞与引当金繰入額	37	役員賞与引当金繰入額	53
退職給付費用	478	退職給付費用	530
役員退職慰労引当金繰入額	76	役員退職慰労引当金繰入額	84

2 投資有価証券売却益

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
東武タワースカイツリー(株)株式	400百万円外		

3 固定資産除却損

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
千葉中央駅西口地区建物	111百万円外	押上変電所設備	157百万円外

4 固定資産圧縮損

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
鉄道施設バリアフリー化設備整備に係る補助金の受入等による圧縮額	478百万円外	鉄道施設安全対策事業に係る補助金の受入等による圧縮額	260百万円外

5 減損損失

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

当社グループは、管理会計上の事業ごと又は物件、店舗ごとに資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、以下のとおり減損損失を計上しております。

（単位：百万円）

主な用途	場所	種類及び金額			
		建物及び構築物	土地	その他	合計
流通業店舗施設13件	東京都葛飾区他	37		61	98
合計		37		61	98

（減損損失を認識するに至った経緯）

当初想定していた収益を見込めなくなったことにより減損損失を認識しております。

（回収可能価額の算定方法）

回収可能価額を正味売却価額により測定している場合には、不動産鑑定評価等に基づき算出しております。

また、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスとなる資産については、回収可能価額を備忘価額としております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

当社グループは、管理会計上の事業ごと又は物件、店舗ごとに資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、以下のとおり減損損失を計上しております。

（単位：百万円）

主な用途	場所	種類及び金額			
		建物及び構築物	土地	その他	合計
レジャー・サービス業ホテル施設	千葉市中央区	84		105	190
流通業店舗施設15件他	千葉県市川市他	59	8	41	110
運輸業変電所施設他	東京都墨田区他	44	2	35	81
賃貸資産3件	茨城県土浦市他		58		58
合計		187	70	183	441

（減損損失を認識するに至った経緯）

当初想定していた収益を見込めなくなったことや処分が決定されたことにより減損損失を認識しております。

（回収可能価額の算定方法）

回収可能価額を正味売却価額により測定している場合には、不動産鑑定評価等に基づき算出し、使用価値により測定している場合には、将来キャッシュ・フローを2.6%で割り引いて算出しております。

また、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスとなる資産については、回収可能価額を備忘価額としております。

6 投資有価証券評価損

前連結会計年度
（自 2018年4月1日
至 2019年3月31日）

当連結会計年度
（自 2019年4月1日
至 2020年3月31日）

（株）千葉興業銀行株式

1百万円 （株）西武ホールディングス株式

422百万円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	261百万円	1,715百万円
組替調整額	1	422
税効果調整前	262	1,293
税効果額	80	310
その他有価証券評価差額金	182	983
退職給付に係る調整額		
当期発生額	2,133	288
組替調整額	46	272
税効果調整前	2,086	16
税効果額	635	5
退職給付に係る調整額	1,451	10
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	18	1,492
組替調整額	9	56
持分法適用会社に対する持分相当額	27	1,435
その他の包括利益合計	1,241	2,430

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	172,411			172,411
合計	172,411			172,411
自己株式				
普通株式	3,141	0		3,141
合計	3,141	0		3,141

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,373百万円	8.00円	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	1,288百万円	7.50円	2018年9月30日	2018年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,631百万円	利益剰余金	9.50円	2019年3月31日	2019年6月28日

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	172,411			172,411
合計	172,411			172,411
自己株式				
普通株式	3,141	562		3,704
合計	3,141	562		3,704

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加562千株は、連結子会社保有の自己株式(当社株式)取得による当社帰属分の増加270千株、持分法適用関連会社から連結子会社への移行による増加247千株、持分法適用関連会社の持分比率変動による増加44千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,631百万円	9.50円	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年10月31日 取締役会	普通株式	1,459百万円	8.50円	2019年9月30日	2019年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,454百万円	利益剰余金	8.50円	2020年3月31日	2020年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	25,214百万円	27,084百万円
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	195	408
現金及び現金同等物	25,018	26,675

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社が公開買付けにより持分法適用関連会社であった関東鉄道(株)の株式を追加取得したことに伴う、連結開始時の資産及び負債の内訳は、次のとおりであります。

流動資産	4,324百万円
固定資産	23,753
資産合計	28,078
流動負債	7,896
固定負債	12,540
負債合計	20,436

(注) 関東鉄道(株)及び同社の子会社が所有している親会社株式の時価評価額を固定資産の金額に含めておりません。

(リース取引関係)

(借手側)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、運輸業における運搬具であります。

・無形固定資産

主として、運輸業における施設利用権であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内	97	60
1年超	75	28
合計	172	89

(貸手側)

1 ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

流動資産

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
リース料債権部分	4,601	5,800
見積残存価額部分	490	490
受取利息相当額	3,068	3,552
リース投資資産	2,024	2,738

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の事業年度末日後の回収予定額

リース投資資産

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	210	286
1年超2年以内	210	286
2年超3年以内	210	286
3年超4年以内	210	286
4年超5年以内	210	286
5年超	3,551	4,367

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内	5,669	5,832
1年超	51,472	49,480
合計	57,141	55,312

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運輸業を中心に「安全・快適」な沿線開発等を行うために、中長期的な設備投資計画に照らして、必要な資金を調達（主に銀行借入や社債発行）しております。

一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入及びコマーシャル・ペーパーの発行により調達しております。

デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

貸付金については、主にグループ会社に対して行う貸付であり、当該会社の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としております。

デリバティブ取引は、借入金の支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権及び貸付金について、各事業部門が取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループでは、各社が月次の資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 投資有価証券	205,403	939,756	734,352
資産計	205,403	939,756	734,352
(1) 短期借入金	63,474	63,474	
(2) 社債	60,000	61,110	1,110
(3) 長期借入金	108,289	114,452	6,162
(4) 鉄道・運輸機構長期未払金	49,470	48,892	578
負債計	281,234	287,929	6,694
デリバティブ取引			

当連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 投資有価証券	214,069	1,031,372	817,302
資産計	214,069	1,031,372	817,302
(1) 短期借入金	55,832	55,832	
(2) 社債	50,450	50,975	525
(3) 長期借入金	128,276	134,249	5,973
(4) 鉄道・運輸機構長期未払金	46,518	46,051	466
負債計	281,077	287,109	6,032
デリバティブ取引			

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 短期借入金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 社債

当社及び連結子会社の発行する社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を同様の社債を発行した場合に適用されると考えられる利率で割り引いた現在価値によって算定しております。

(3) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは帳簿価額を時価とし、固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該長期借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。

(4) 鉄道・運輸機構長期未払金

鉄道・運輸機構長期未払金の時価については、元利金の合計額を独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構から新規調達した場合に想定される利率で割り引いた現在価値によって算定しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
非上場株式	13,951	12,061

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(1) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 社債、借入金及び鉄道・運輸機構長期未払金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	43,812					
社債	10,000	10,000			10,000	40,000
長期借入金	19,662	9,133	8,575	12,852	7,913	69,815
鉄道・運輸機構 長期未払金	2,824	2,870	2,917	2,966	3,016	36,684
合計	76,298	22,003	11,493	15,818	20,929	146,499

(注) 鉄道・運輸機構長期未払金には、これらに係る消費税の未払金は含めておりません。

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	45,050					
社債	10,000			10,000	150	40,300
長期借入金	10,781	9,856	14,208	9,224	18,084	76,902
鉄道・運輸機構 長期未払金	2,876	2,894	2,912	3,023	3,072	33,647
合計	68,709	12,751	17,121	22,248	21,307	150,849

(注) 鉄道・運輸機構長期未払金には、これらに係る消費税の未払金は含めておりません。

(有価証券関係)

1 その他有価証券で時価のあるもの
前連結会計年度(2019年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの)			
株式	10,702	6,390	4,312
債券			
その他			
小計	10,702	6,390	4,312
(連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの)			
株式	1,841	2,066	224
債券			
その他			
小計	1,841	2,066	224
合計	12,543	8,456	4,087

当連結会計年度(2020年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの)			
株式	8,835	5,473	3,362
債券			
その他			
小計	8,835	5,473	3,362
(連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの)			
株式	2,672	3,268	595
債券			
その他			
小計	2,672	3,268	595
合計	11,508	8,741	2,766

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

売却額及び売却損益の合計額に重要性がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、減損処理額に重要性がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度において、有価証券について422百万円(その他有価証券の株式422百万円)減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

該当事項はありません。

(2) 金利関連

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	20,534	9,266	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	9,666	8,507	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しており、連結子会社は一時金制度に加え確定給付企業年金制度（規約型）、確定拠出年金制度及び中小企業退職金共済制度を採用しております。

なお、連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、主として簡便法を採用しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	23,966	26,323
勤務費用	1,204	1,390
利息費用	204	38
数理計算上の差異の発生額	2,119	275
退職給付の支払額	1,171	1,671
連結範囲の変動		2,371
退職給付債務の期末残高	26,323	28,727

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
年金資産の期首残高	1,307	1,455
期待運用収益	0	0
数理計算上の差異の発生額	13	13
事業主からの拠出額	423	395
退職給付の支払額	262	185
年金資産の期末残高	1,455	1,651

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	8,379	8,350
退職給付費用	646	652
退職給付の支払額	711	642
制度への拠出額	33	32
連結範囲の変動	32	169
その他	36	24
退職給付に係る負債の期末残高	8,350	8,521

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	4,250	4,203
年金資産（退職給付信託を含む）	1,934	2,147
	2,316	2,055
非積立制度の退職給付債務	30,902	33,541
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	33,218	35,596
退職給付に係る負債	33,218	35,600
退職給付に係る資産		3
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	33,218	35,596

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	1,204	1,390
利息費用	204	38
期待運用収益	0	0
数理計算上の差異の費用処理額	111	337
過去勤務費用の費用処理額	64	64
簡便法で計算した退職給付費用	646	652
確定給付制度に係る退職給付費用	2,102	2,353

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
過去勤務費用	64	64
数理計算上の差異	2,022	48
合計	2,086	16

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
未認識過去勤務費用	64	
未認識数理計算上の差異	2,323	2,457
合計	2,259	2,457

(8) 年金資産に関する事項（簡便法を適用した制度を除く。）

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
現金及び預金	54%	54%
短期資産	46	46
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
割引率	0.0～0.8%	0.0～0.8%
長期期待運用収益率	0.0	0.0

3 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度62百万円、当連結会計年度70百万円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	10,206百万円	10,956百万円
不動産事業の再編に伴う 土地評価損	3,758	3,758
減損損失	3,016	2,987
税務上の繰越欠損金	949	1,362
未実現利益の消去	1,280	1,191
賞与引当金	976	1,109
たな卸資産評価損	244	361
役員退職慰労引当金	98	102
貸倒引当金	22	82
その他	4,168	4,510
繰延税金資産小計	24,723	26,423
評価性引当額	9,735	10,599
繰延税金資産合計	14,987	15,823
繰延税金負債		
企業結合に伴う評価差額	1,362	2,634
その他有価証券評価差額金	1,076	850
その他	323	377
繰延税金負債合計	2,762	3,862
繰延税金資産の純額	12,224	11,961

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
国内の法定実効税率 (調整)	30.5%	30.5%
繰延税金資産に係る 評価性引当額の増減額	0.3	2.1
負ののれん発生益		1.1
段階取得に係る差損		0.3
受取配当金等 永久に益金に算入されない項目	2.5	3.6
持分法による投資利益	12.2	10.4
連結上の受取配当金の消去	3.4	3.9
その他	0.5	0.9
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	20.0	22.6

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 関東鉄道株式会社

事業の内容 運輸業（鉄道事業・バス事業・タクシー事業）、不動産業、流通業、レジャー・サービス業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、これまで関東鉄道株式会社を持分法適用関連会社とし、鉄道事業における営業施策・安全施策等での情報交換、資材等の共同購入及び大規模自然災害時の復旧支援並びにバス事業における高速バスの共同運行など緩やかな連携を行ってきましたが、同社のバス事業における収益強化など経営基盤の更なる強化による企業価値向上を図り、当社グループの経営体制を一層強化するためには、連結子会社化による強固な協力関係を構築し、当社グループでのスケールメリット、事業ノウハウ等を有効活用するとともに、実務担当者間で従来以上に緊密化した連携を図り、グループ一体となって経営を遂行することが必要であると考えました。このような状況の中、当社は、同社を連結子会社化することによる事業シナジー創出の可能性について検討し、その結果、バス事業の収益強化など一定以上の効果が見込まれることから同社を連結子会社化することが必要不可欠であると判断するに至りました。

(3) 企業結合日

2019年10月8日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合日前に所有していた議決権比率 30.7%

企業結合日に追加取得した議決権比率 27.0%

取得後の議決権比率 57.7%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が議決権の過半数を所有し、意思決定機関を支配していることが認められるためです。

2 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2019年10月1日から2020年3月31日まで

なお、被取得企業は持分法適用関連会社であったため、第2四半期連結累計期間の業績は「持分法による投資利益」として計上しております。

3 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

追加取得直前に保有していた被取得企業株式の企業結合日における時価	1,526百万円
企業結合日に追加取得した被取得企業株式の時価	1,338
取得原価	2,864

4 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損 362百万円

5 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 148百万円

6 負ののれん発生益の金額、発生原因

(1) 負ののれん発生益の金額

1,427百万円

(2) 発生原因

取得原価が受け入れた資産及び引き受けた負債に配分された純額を下回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

7 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	4,324百万円
固定資産	23,753
資産合計	28,078
流動負債	7,896
固定負債	12,540
負債合計	20,436

(注) 関東鉄道(株)及び同社の子会社が所有している親会社株式の時価評価額を固定資産の金額に含めております。

8 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

営業収益	7,934百万円
営業利益	831
経常利益	636
税金等調整前当期純利益	593
親会社株主に帰属する当期純利益	118

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された営業収益及び損益情報と、連結損益計算書における営業収益及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。なお、連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された営業収益及び損益情報から、当社が当連結会計年度に計上した被取得企業の持分法による投資利益を控除しております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

記載すべき重要な事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、東京都や千葉県などの地域において、賃貸商業施設、賃貸住宅、賃貸オフィスビルなど(土地を含む。)を有しております。

2019年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は5,711百万円(賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業費に計上)であり、2020年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は6,329百万円(賃貸収益は営業収益に、主な賃貸費用は営業費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	80,765	102,786
	期中増減額	22,021	11,275
	期末残高	102,786	114,062
期末時価		141,391	160,383

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は三菱ふそうトラック・バス(株)整備・営業拠点取得(18,395百万円)、習志野市津田沼賃貸住宅取得(1,487百万円)であり、主な減少は減価償却費(2,641百万円)であります。また、当連結会計年度の主な増加は関東鉄道(株)連結子会社化による増加(5,575百万円)、台東区東上野賃貸施設(京成東上野ビル)取得(4,097百万円)であり、主な減少は減価償却費(2,834百万円)であります。
- 3 期末の時価は、土地は適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づき自社で算定した金額であり、建物等の償却性資産は適切な帳簿価額の金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

なお、当社は、鉄道事業を中心にグループを展開しており、報告セグメント及び主要な事業内容は次のとおりであります。

(報告セグメント)	(主要な事業内容)
運輸業	鉄道、バス、タクシー等の営業を行っております。
流通業	百貨店業等により商品の販売等を行っております。
不動産業	建物の賃貸、土地及び建物の販売等を行っております。
レジャー・サービス業	映画、ホテル、飲食業等を行っております。
建設業	土木・建築工事、電気工事等の請負を行っております。
その他の事業	鉄道車両の整備、自動車車体の製造等を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	建設業	その他の事業	計	調整額(注1)	連結財務諸表計上額(注2)
営業収益									
(1) 外部顧客に対する営業収益	152,967	68,075	16,695	6,595	12,365	4,853	261,553		261,553
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	1,037	559	5,710	2,641	11,897	4,749	26,596	26,596	
計	154,004	68,634	22,406	9,237	24,263	9,602	288,149	26,596	261,553
セグメント利益	22,448	247	6,727	107	1,466	573	31,570	37	31,608
セグメント資産	450,404	25,255	148,184	6,119	17,160	8,204	655,328	197,697	853,025
その他の項目									
減価償却費	21,291	754	3,332	191	56	81	25,708	105	25,603
減損損失		98					98		98
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	32,934	947	26,821	394	34	213	61,344	505	60,839

(注) 1 (1) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去及びのれん償却額であります。

(2) セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去及び全社資産の金額242,487百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社での余資運用資金(現金・預金、短期貸付金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券及び長期貸付金)及び持分法適用会社株式であります。

(3) 減価償却費の調整額は、セグメント間取引消去であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	建設業	その他の事業	計	調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
営業収益									
(1) 外部顧客に対する 営業収益	160,449	67,728	18,441	7,547	15,902	4,727	274,796		274,796
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	640	593	6,206	2,976	11,343	5,250	27,010	27,010	
計	161,089	68,321	24,648	10,524	27,245	9,977	301,806	27,010	274,796
セグメント利益又は損失()	17,921	389	8,446	140	1,617	316	28,550	230	28,320
セグメント資産	473,932	24,597	169,299	5,902	19,177	8,522	701,432	204,284	905,716
その他の項目									
減価償却費	24,222	786	3,786	231	57	93	29,176	91	29,085
減損損失	81	110	58	190			441		441
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	37,817	1,146	16,497	234	50	71	55,816	495	55,320

- (注) 1 (1) セグメント利益又は損失の調整額は、子会社株式の取得関連費用、セグメント間取引消去及びのれん償却額であります。
- (2) セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去及び全社資産の金額250,089百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社での余資運用資金(現金・預金、短期貸付金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券及び長期貸付金)及び持分法適用会社株式であります。
- (3) 減価償却費の調整額は、セグメント間取引消去であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。
- 2 セグメント利益又は損失は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 3 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、新規連結に伴う増加額を含めておりません。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高は僅少なため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高は僅少なため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社が公開買付けにより持分法適用関連会社であった関東鉄道㈱の株式を追加取得したことに伴い、同社及び同社の子会社14社を連結の範囲に含めております。この結果、当連結会計年度において、負ののれん発生益1,427百万円を特別利益に計上しておりますが、報告セグメントには配分していません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は(株)オリエンタルランドであり、その要約財務情報は以下のとおりであります。

単位：百万円	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	441,835	316,741
固定資産合計	609,619	693,910
流動負債合計	154,652	100,495
固定負債合計	93,601	89,898
純資産合計	803,201	820,257
売上高	525,622	464,450
税金等調整前当期純利益	129,439	89,133
親会社株主に帰属する当期純利益	90,286	62,217

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	2,300.86円	2,436.36円
1株当たり当期純利益	228.29円	178.07円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	38,642	30,110
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	38,642	30,110
普通株式の期中平均株式数 (千株)	169,269	169,095

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	402,901	428,664
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	13,436	17,634
(うち非支配株主持分) (百万円)	13,436	17,634
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	389,464	411,030
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (千株)	169,269	168,706

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
当社	第46回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2009年 6月15日	10,000		2.160	なし	2019年 6月14日
"	第48回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2013年 7月25日	10,000	10,000	1.004	"	2023年 7月25日
"	第49回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2015年 9月4日	10,000	10,000 (10,000)	0.291	"	2020年 9月4日
"	第50回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2016年 6月21日	10,000	10,000	0.449	"	2031年 6月20日
"	第51回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2018年 9月7日	10,000	10,000	0.395	"	2028年 9月7日
"	第52回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2018年 9月7日	10,000	10,000	0.833	"	2038年 9月7日
"	第53回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	2019年 3月8日	10,000	10,000	0.787	"	2039年 3月8日
関東鉄道株	第10回無担保社債 (株)筑波銀行保証付及び適格 機関投資家限定)	2018年 2月20日		150	0.250	"	2025年 2月20日
"	第11回無担保社債 (株)筑波銀行保証付及び適格 機関投資家限定)	2019年 2月20日		300	0.250	"	2026年 2月20日
合計			70,000	60,450			

(注) 1 当期末残高のうち()内は内書で、連結決算日後1年以内に償還予定のものであります。

2 連結決算日後5年内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
10,000			10,000	150

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	43,812	45,050	0.4	
1年以内に返済予定の長期借入金	19,662	10,781	0.9	
1年以内に返済予定のリース債務	5,043	6,442		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	108,289	128,276	0.9	2021年～2044年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	21,956	26,913		2021年～2067年
その他有利子負債				
コマーシャル・ペーパー (1年内返済)		16,000	0.0	
鉄道・運輸機構長期未払金 (1年内返済)	2,824	2,876	0.7	
鉄道・運輸機構長期未払金 (1年超)	48,455	45,551	0.7	2021年～2037年
預り保証金(1年内返済)	228	52	0.6	
預り保証金(1年超)	324	271	0.6	2021年～2027年
合計	250,596	282,217		

- (注) 1 平均利率については、期末日の利率及び借入残高に対する加重平均利率を記載しております。リース債務については、利息相当額を控除しない方法で計上しているため、平均利率は記載しておりません。
- 2 鉄道・運輸機構長期未払金には、これらに係る消費税の未払金(当期首残高1,074百万円 当期末残高1,014百万円)は含めておりません。
- 3 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	9,856	14,208	9,224	18,084
リース債務	6,065	5,432	3,605	2,742
その他有利子負債	2,947	2,965	3,075	3,125

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
営業収益 (百万円)	70,367	138,007	208,363	274,796
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	15,336	28,228	44,313	40,958
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	11,415	21,176	33,581	30,110
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	67.44	125.10	198.49	178.07

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益又は 1株当たり 四半期純損失() (円)	67.44	57.66	73.38	20.55

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,504	5,293
未収運賃	4,962	3,457
未収金	3,443	1,148
リース投資資産	2,104	2,079
短期貸付金	1,110	1,762
分譲土地建物	7,559	6,836
貯蔵品	2,069	2,182
前払費用	1,114	1,094
その他の流動資産	2,354	3,118
貸倒引当金	-	80
流動資産合計	29,223	26,893
固定資産		
鉄道事業固定資産		
有形固定資産	469,927	475,142
減価償却累計額	238,569	243,317
有形固定資産（純額）	¹ 231,358	¹ 231,824
無形固定資産	6,201	6,576
鉄道事業固定資産合計	³ 237,559	³ 238,400
開発事業固定資産		
有形固定資産	178,194	199,812
減価償却累計額	47,677	54,324
有形固定資産（純額）	¹ 130,516	¹ 145,488
無形固定資産	413	401
開発事業固定資産合計	³ 130,930	³ 145,890
各事業関連固定資産		
有形固定資産	4,562	4,562
減価償却累計額	713	796
有形固定資産（純額）	3,848	3,765
無形固定資産	173	126
各事業関連固定資産合計	4,022	3,891
建設仮勘定		
鉄道事業	28,145	33,988
開発事業	2,261	1,939
各事業関連	103	209
建設仮勘定合計	30,510	36,137

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	12,148	11,300
関係会社株式	1 64,793	67,295
長期貸付金	271	200
従業員に対する長期貸付金	1	0
関係会社長期貸付金	19,974	19,588
長期前払費用	55	50
繰延税金資産	8,280	8,282
その他の投資等	1,200	1,174
貸倒引当金	-	410
投資その他の資産合計	106,724	107,482
固定資産合計	509,747	531,802
繰延資産		
社債発行費	272	239
繰延資産合計	272	239
資産合計	539,244	558,935
負債の部		
流動負債		
短期借入金	34,945	34,945
1年内返済予定の長期借入金	1 18,743	1 8,324
コマーシャル・ペーパー	-	16,000
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
リース債務	3,312	3,785
未払金	8,324	6,054
設備関係未払金	13,585	14,291
未払費用	960	880
未払消費税等	-	0
未払法人税等	3,129	2,218
預り連絡運賃	749	664
預り金	4 38,266	4 37,408
前受運賃	2,449	2,551
前受金	19,412	22,719
賞与引当金	998	1,015
その他の流動負債	32	88
流動負債合計	154,909	160,948
固定負債		
社債	60,000	50,000
長期借入金	1 96,892	1 110,618
リース債務	16,380	18,152
長期未払金	884	267
退職給付引当金	19,141	18,984
関係会社事業損失引当金	-	322
資産除去債務	1,403	1,421
長期預り敷金保証金	5,768	5,807
その他の固定負債	1	1
固定負債合計	200,472	205,577
負債合計	355,381	366,525

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,803	36,803
資本剰余金		
資本準備金	27,845	27,845
その他資本剰余金	58	58
資本剰余金合計	27,904	27,904
利益剰余金		
利益準備金	3,038	3,038
その他利益剰余金		
別途積立金	8,095	8,095
繰越利益剰余金	107,067	118,791
利益剰余金合計	118,201	129,925
自己株式	794	3,254
株主資本合計	182,114	191,379
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,747	1,030
評価・換算差額等合計	1,747	1,030
純資産合計	183,862	192,410
負債純資産合計	539,244	558,935

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
鉄道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	65,563	65,213
運輸雑収	3,855	3,216
鉄道事業営業収益合計	69,419	68,429
営業費		
運送営業費	37,904	38,316
一般管理費	2,167	2,364
諸税	3,169	3,141
減価償却費	12,741	14,108
鉄道事業営業費合計	55,983	57,931
鉄道事業営業利益	13,436	10,497
開発事業営業利益		
営業収益		
土地建物分譲収入	3,304	3,266
賃貸収入	12,650	14,285
開発事業営業収益合計	15,954	17,551
営業費		
売上原価	2,773	2,249
販売費及び一般管理費	2,136	2,271
諸税	1,510	1,694
減価償却費	3,285	3,600
開発事業営業費合計	9,706	9,816
開発事業営業利益	6,248	7,734
全事業営業利益	19,685	18,232
営業外収益		
受取利息	360	354
受取配当金	5,449	5,206
受託工事事務費戻入	215	115
雑収入	965	943
営業外収益合計	1 6,991	1 6,619
営業外費用		
支払利息	1,502	1,350
社債利息	465	420
社債発行費償却	31	33
業務受託費用	282	281
貸倒引当金繰入額	-	490
関係会社事業損失引当金繰入額	-	322
雑支出	274	387
営業外費用合計	2,556	1 3,286
経常利益	24,120	21,565

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
特別利益		
工事負担金等受入額	814	334
受取保険金	1	201
投資有価証券売却益	2 417	-
その他	4	8
特別利益合計	1,238	544
特別損失		
固定資産除却損	3 252	3 594
投資有価証券評価損	-	4 422
固定資産圧縮損	5 805	5 322
災害による損失	-	227
減損損失	-	79
その他	111	-
特別損失合計	1,170	1,647
税引前当期純利益	24,188	20,462
法人税、住民税及び事業税	6,195	5,438
法人税等調整額	62	207
法人税等合計	6,258	5,646
当期純利益	17,929	14,815

【営業費明細表】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
鉄道事業営業費	1				
1 運送営業費					
人件費		15,064		15,459	
経費		22,839		22,856	
計			37,904		38,316
2 一般管理費					
人件費		1,196		1,320	
経費		970		1,044	
計			2,167		2,364
3 諸税			3,169		3,141
4 減価償却費		12,741		14,108	
鉄道事業営業費合計			55,983		57,931
開発事業営業費	2				
1 売上原価					
不動産販売売上原価		2,750		2,224	
その他の開発事業 売上原価		22		25	
計			2,773		2,249
2 販売費及び一般管理費					
人件費		344		395	
経費		1,792		1,875	
計			2,136		2,271
3 諸税			1,510		1,694
4 減価償却費		3,285		3,600	
開発事業営業費合計			9,706		9,816
全事業営業費合計			65,689		67,748

(注) 事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用並びに営業費(全事業)に含まれている引当金繰入額は、次のとおりであります。

前事業年度			当事業年度		
1 鉄道事業営業費	運送営業費	百万円	1 鉄道事業営業費	運送営業費	百万円
	給与	12,299		給与	12,541
	鉄道線路使用料	5,693		鉄道線路使用料	5,720
	修繕費	5,261		修繕費	5,275
	動力費	3,490		動力費	3,439
2 開発事業営業費	販売費及び一般管理費		2 開発事業営業費	販売費及び一般管理費	
	賃借料	585		賃借料	590
3 営業費(全事業)に含まれている引当金繰入額			3 営業費(全事業)に含まれている引当金繰入額		
	賞与引当金繰入額	998		賞与引当金繰入額	1,015
	退職給付引当金繰入額	951		退職給付引当金繰入額	1,083

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	36,803	27,845	58	27,904	3,038	8,095	91,799	102,933
当期変動額								
剰余金の配当							2,662	2,662
当期純利益							17,929	17,929
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計							15,267	15,267
当期末残高	36,803	27,845	58	27,904	3,038	8,095	107,067	118,201

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	794	166,847	1,469	1,469	168,316
当期変動額					
剰余金の配当		2,662			2,662
当期純利益		17,929			17,929
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			278	278	278
当期変動額合計	0	15,267	278	278	15,545
当期末残高	794	182,114	1,747	1,747	183,862

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	36,803	27,845	58	27,904	3,038	8,095	107,067	118,201
当期変動額								
剰余金の配当							3,091	3,091
当期純利益							14,815	14,815
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計							11,724	11,724
当期末残高	36,803	27,845	58	27,904	3,038	8,095	118,791	129,925

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	794	182,114	1,747	1,747	183,862
当期変動額					
剰余金の配当		3,091			3,091
当期純利益		14,815			14,815
自己株式の取得	2,459	2,459			2,459
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			716	716	716
当期変動額合計	2,459	9,264	716	716	8,547
当期末残高	3,254	191,379	1,030	1,030	192,410

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

分譲土地建物 個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品 移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

建物及び構築物 (全事業) 定額法

車両、機械装置、工具・器具・備品 (賃貸業用のもの) 定額法

同上 (賃貸業以外のもの) 定率法

なお、鉄道事業の取替資産については、取替法(定額法)を適用しております。

また、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8年～50年

構築物 5年～60年

車両 13年

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く) 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債の償還までの期間にわたり定額法により償却しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

営業債権・貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給にあてるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日事業年度から費用処理することとしております。

(4) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

6 収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

7 鉄道事業における工事負担金等の会計処理の方法

鉄道事業において固定資産の取得のために受け入れた工事負担金等は、工事完成時に当該固定資産の取得原価から直接減額しております。なお、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減じた額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しております。

8 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引について特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	金利スワップ
ヘッジ対象	借入金

(3) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクをヘッジする目的で、特例処理を採用できるもの限り金利スワップを行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利の変動に伴うキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定されるため、ヘッジ有効性の評価は省略しております。

9 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 支払利息の原価算入

分譲土地建物の開発事業に係る支払利息の一部を取得原価に算入しております。

なお、当事業年度において取得原価に算入した額はありません。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

「受取保険金」は、その金額に重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度において、「特別利益」の「その他」に表示していた6百万円は、「受取保険金」1百万円、「その他」4百万円として組み替えております。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、主に鉄道事業において、成田空港関連輸送の需要減等により、当事業年度の業績に影響を与えております。

翌事業年度以降の業績に与える影響については、収束時期等を予想することが困難なことから、2020年度中は当該影響が継続するものの、2021年度には感染拡大前の状況に戻ると仮定しており、固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性等の判断にあたっては、当該仮定による会計上の見積りを行っております。

なお、当該仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合は、翌事業年度以降の財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 担保物件

(イ)財団

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
鉄道事業固定資産	204,973百万円	203,677百万円
上記固定資産を下記の債務の担保に供しております。		
長期借入金 (1年内返済額を含む 財団抵当借入金)	48,177百万円	47,466百万円

(ロ)その他

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(1)開発事業固定資産	2,018百万円	2,018百万円
上記固定資産を下記の債務の担保に供しております。		
長期借入金 (1年内返済額を含む)	35百万円	17百万円

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(2)関係会社株式	39百万円	
上記有価証券を下記の債務を担保するため譲渡担保として差し入れております。		
子会社の取引先に対する 保証金及び敷金返還債務	567百万円	

2 偶発債務

下記の会社のリース料に対して債務保証を行っております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
千葉ニュータウン鉄道㈱	502百万円	441百万円
北総鉄道㈱	143	

3 固定資産の取得原価から控除した工事負担金等累計額

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
鉄道事業固定資産	123,371百万円	123,681百万円
開発事業固定資産	634	634
計	124,005	124,316

4 関係会社に係るもの

区分掲記されたもの以外で、各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債 預り金	34,889百万円	35,069百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るもの

(1) 営業外収益のうち関係会社に係る取引が次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
受取配当金	5,337百万円	5,067百万円
上記以外の営業外収益の合計	1,040	1,039

(2) 営業外費用のうち関係会社に係る取引が次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
		貸倒引当金繰入額
		490百万円
		上記以外の営業外費用の合計
		428

2 投資有価証券売却益

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
東武タワースカイツリー(株) 株式	400百万円外	

3 固定資産除却損

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
千葉中央駅西口地区建物	111百万円外	押上変電所設備
		157百万円外

4 投資有価証券評価損

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
		(株)西武ホールディングス株式
		422百万円

5 固定資産圧縮損

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
鉄道施設バリアフリー化設備整備に係る補助金の受入等による圧縮額	478百万円外	鉄道施設安全対策事業に係る補助金の受入等による圧縮額
		169百万円外

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
自己株式				
普通株式	663,145	146		663,291
合計	663,145	146		663,291

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加146株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
自己株式				
普通株式	663,291	617,238		1,280,529
合計	663,291	617,238		1,280,529

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加617,238株は、取締役会決議による取得(617,049株)及び単元未満株式の買取り(189株)による増加であります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度末(2019年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
関連会社株式	33,906	921,864	887,957

当事業年度末(2020年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
関連会社株式	33,906	1,013,082	979,176

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額
(単位:百万円)

区分	前事業年度末 (2019年3月31日)	当事業年度末 (2020年3月31日)
子会社株式	27,241	29,963
関連会社株式	3,645	3,425
計	30,886	33,388

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	5,904百万円	5,857百万円
合併による土地評価差額	3,913	3,913
減損損失	2,572	2,431
有価証券評価損	1,072	1,201
その他	2,889	3,309
繰延税金資産小計	16,352	16,713
評価性引当額	7,467	8,013
繰延税金資産合計	8,885	8,699
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	518	307
その他	86	108
繰延税金負債合計	604	416
繰延税金資産の純額	8,280	8,282

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.5%
(調整)		
繰延税金資産に係る評価性引当額の増減額	0.0	2.0
住民税均等割	0.1	0.1
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	4.8	5.2
その他	0.0	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.9	27.6

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	1,070.53円	1,124.35円
1株当たり当期純利益	104.40円	86.31円

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益 (百万円)	17,929	14,815
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	17,929	14,815
普通株式の期中平均株式数 (千株)	171,747	171,652

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(その他有価証券)		
京浜急行電鉄(株)	1,228,500	2,232
東武鉄道(株)	369,400	1,392
京王電鉄(株)	211,500	1,351
成田高速鉄道アクセス(株)	24,000	1,200
南海電気鉄道(株)	365,800	899
三井不動産(株)	410,000	766
A N Aホールディングス(株)	245,300	647
西日本鉄道(株)	204,000	542
(株)西武ホールディングス	317,700	377
(株)千葉興業銀行(優先株式)	6,000	300
その他38銘柄	8,638,331	1,590
計	12,020,531	11,300

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
土地	106,369	8,739	1 (1)	115,108			115,108
建物	158,843	9,135	1,785 [29] (153)	166,193	80,754	4,695	85,439
構築物	270,341	5,227	1,011 [15] (168)	274,557	136,221	5,611	138,336
車両	38,943	2,213	1,517	39,638	32,978	1,467	6,660
機械装置	25,112	1,460	1,271 [35]	25,302	19,464	888	5,837
工具・器具・備品	6,226	832	158 [0]	6,899	5,367	485	1,532
リース資産	46,846	5,423	453	51,817	23,653	3,669	28,163
建設仮勘定	30,510	35,277	29,650	36,137			36,137
有形固定資産計	683,194	68,311	35,849 [79] (322)	715,655	298,439	16,819	417,216
無形固定資産							
借地権	403			403			403
施設負担金	6,707	836	58	7,485	3,965	326	3,520
施設利用権	1,148			1,148	314	38	833
下水道施設利用権	376	1		378	277	16	100
ソフトウェア	6,537	364	42	6,860	5,704	385	1,155
リース資産	2,258			2,258	1,175	121	1,082
その他	76		0	76	68	0	8
無形固定資産計	17,508	1,203	100	18,610	11,506	887	7,104
長期前払費用	55	0	5	50			50
繰延資産							
社債発行費	417		59	357	118	33	239
繰延資産計	417		59	357	118	33	239

(注) 1 当期増加額のうち主なものは以下のとおりであります。

土地	墨田区江東橋賃貸施設用地取得	4,155百万円
	台東区東上野賃貸施設取得	2,452
建物	台東区東上野賃貸施設取得	1,644
建設仮勘定	列車無線設備更新工事	2,310
	千葉中央駅西口複合賃貸施設建替工事	1,744

2 当期減少額のうち〔 〕内は内書で、減損損失の計上額であります。

3 当期減少額のうち()内は内書で、取得原価から控除している圧縮記帳額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金		490			490
賞与引当金	998	1,015	998		1,015
関係会社事業損失引当金		322			322

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで				
定時株主総会	6月中				
基準日	3月31日				
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日				
1単元の株式数	100株				
単元未満株式の買取り・買増し					
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部				
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社				
取次所					
買取・買増手数料	無料				
公告掲載方法	<p>当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。</p> <p>当社の公告掲載アドレスは、次のとおりであります。 https://www.keisei.co.jp/</p>				
株主に対する特典	<p>毎年3月31日及び9月30日の最終の株主名簿に記載された株主に対して、次のとおり株主優待乗車証及び施設利用優待券を発行しております。</p> <p>1 株主優待乗車証</p>				
			発行枚数		継続保有 追加発行枚数 (回数券式・電車)
	保有株式数	株主優待乗車証の方式	9月末 (基準日)	3月末 (基準日)	
	100株以上 500株未満	回数券式(電車) 1枚1乗車有効		2枚	
	500株以上 1,500株未満	"	4枚	4枚	
	1,500株以上 2,500株未満	"	7枚	7枚	
	2,500株以上 3,500株未満	"	10枚	10枚	3枚
	3,500株以上 5,000株未満	"	20枚	20枚	3枚
	5,000株以上 10,000株未満	"	30枚	30枚	6枚
	10,000株以上 17,500株未満	"	60枚	60枚	6枚
17,500株以上 25,000株未満	定期券式(電車) 又は 回数券式(電車) 1枚1乗車有効	1枚 又は 60枚	1枚 又は 60枚	14枚	
25,000株以上	定期券式(電車・バス) 又は 回数券式(電車) 1枚1乗車有効	1枚 又は 60枚	1枚 又は 60枚	14枚	
<p>(継続保有追加発行の対象者は、過去3年間すべての基準日において、対象株数以上を継続して保有し、かつ株主番号又は氏名・住所が継続して同一である株主)</p> <p>2 施設利用優待券 500株以上保有の株主に一律「株主ご優待券」1冊</p> <p>3 有効期限 3月31日現在の株主：11月30日まで 9月30日現在の株主：翌年5月31日まで</p>					

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | |
|---------------------------|-----------------|-------------------------------|--|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類 | 事業年度
(第176期) | 自 2018年4月1日
至 2019年3月31日 | 2019年6月27日
関東財務局長に提出。 |
| (2) 確認書 | | | 2019年6月27日
関東財務局長に提出。
第176期(自2018年4月1日至2019年3月31日)の有価証券報告書に係る確認書であります。 |
| (3) 内部統制報告書 | | | 2019年6月27日
関東財務局長に提出。 |
| (4) 臨時報告書 | | | 2019年7月1日
関東財務局長に提出。
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2
に基づく臨時報告書であります。(株主総会における議決権行使の結果) |
| (5) 発行登録書
及びその添付資料 | (募集有価証券：社債) | | 2019年7月3日
関東財務局長に提出。 |
| (6) 訂正発行登録書 | | | 2019年7月16日
関東財務局長に提出。
2019年7月3日提出の発行登録書に係る訂正発行登録書であります。 |
| (7) 四半期報告書
及び確認書 | 第177期
第1四半期 | 自 2019年4月1日
至 2019年6月30日 | 2019年8月9日
関東財務局長に提出。 |
| (8) 四半期報告書
及び確認書 | 第177期
第2四半期 | 自 2019年7月1日
至 2019年9月30日 | 2019年11月8日
関東財務局長に提出。 |
| (9) 四半期報告書
及び確認書 | 第177期
第3四半期 | 自 2019年10月1日
至 2019年12月31日 | 2020年2月13日
関東財務局長に提出。 |
| (10) 自己株券買付状況報告書 | | | 2020年2月14日
関東財務局長に提出。 |
| (11) 自己株券買付状況報告書 | | | 2020年3月13日
関東財務局長に提出。 |
| (12) 発行登録追補書類
及びその添付書類 | | | 2020年6月5日
関東財務局長に提出。
2019年7月3日提出の発行登録書に係る発行登録追補書類であります。 |
| (13) 確認書 | | | 2020年6月26日
関東財務局長に提出。
第177期(自2019年4月1日至2020年3月31日)の有価証券報告書に係る確認書であります。 |
| (14) 内部統制報告書 | | | 2020年6月26日
関東財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月26日

京成電鉄株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 滝 沢 勝 己

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古 賀 祐 一 郎

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている京成電鉄株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、京成電鉄株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、京成電鉄株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、京成電鉄株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月26日

京成電鉄株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	滝	沢	勝	己
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	古	賀	祐	一郎

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている京成電鉄株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第177期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、京成電鉄株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ

適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 X B R L データは監査の対象には含まれておりません。